

令和2年度
堺市立図書館サービス評価

堺市立図書館
第三者評価：堺市立図書館協議会

令和3年8月

第三者評価凡例

A:非常に評価できる

B:評価できる

C:あまり評価できない

D:全く評価できない

目次

I	新型コロナウイルス感染症の影響について.....	1
1.	新型コロナウイルス感染症関連対応経過（令和2年2月～令和3年3月）.....	1
2.	新型コロナウイルス感染症の影響について.....	5
II	新たなサービス方針.....	8
III	各サービスの基本方針にかかる評価.....	10
	基本方針（1）【育む力】.....	10
	基本方針（2）【学ぶ力】.....	13
	基本方針（3）【創る力】.....	16
IV	令和2年度 各図書館の取組み状況.....	19
	令和2年度 各図書館の取組み状況（堺区）.....	20
	令和2年度 各図書館の取組み状況（中区）.....	24
	令和2年度 各図書館の取組み状況（東区）.....	27
	令和2年度 各図書館の取組み状況（西区）.....	32
	令和2年度 各図書館の取組み状況（南区）.....	37
	令和2年度 各図書館の取組み状況（北区）.....	41
	令和2年度 各図書館の取組み状況（美原区）.....	45
V	令和2年度の総評.....	49
VI	基本的な図書館活動指標.....	52

I 新型コロナウイルス感染症の影響について

1. 新型コロナウイルス感染症関連対応経過(令和2年2月～令和3年3月)

太字…堺市立図書館の動き

日付	国などの動き	本市の動き
令和2年 2月18日	大阪府の対策本部会議において、イベント等の中止についての方針を発表	
2月20日		第2回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
2月21日		市の決定を受け、図書館主催イベントの中止または延期を決定(～3月20日)
2月27日	安倍首相(当時)が、新型コロナウイルス感染症対策本部で、全国の小、中、高、特別支援学校を、3月2日から春休みに入るまで臨時休校するよう要請	第3回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催 市立学校園臨時休業措置決定(2月29日～3月13日)
2月28日	大阪府の対策本部会議において、不特定多数が集まる屋内の府有施設の休館を決定し、市町村にも同様の対応を要請	
3月2日		市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室開始(～3月20日)
3月9日		市立学校園臨時休業措置期間の延長を決定(～3月24日)
3月19日	国の専門家会議において、大阪府、兵庫県の全域において、感染の急激な増加が既に始まっていることが伺えるとの見解が示される	
3月20日	大阪府の対策本部会議において、現在休館している府有施設は4月3日まで継続することを決定	市主催のイベント自粛や施設の臨時休館などの措置を、当面の間、延長することを決定
3月24日		市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室を延長(～4月3日)
4月2日	大阪府の対策本部会議において、府有施設等の休館を5月6日まで延長し、市町村にも同様の対応を要請	

I 新型コロナウイルス感染症の影響について

日付	国などの動き	本市の動き
4月 3日		第7回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催 市主催のイベント自粛や施設の臨時休館、私立学校園の臨時休業措置を延長することを決定(～5月6日) 市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室を延長(～5月6日)
4月 7日	政府が7都府県に対し、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を発出	市立図書館の電子図書館臨時利用者ID発行(電子メールによる申込)を実施(発行は5月31日まで、利用は7月31日まで)
4月 16日	政府が緊急事態宣言を全国に拡大	
4月 28日		市立学校園の臨時休業措置期間の延長を決定(～5月6日) 市立図書館ホームページでデジタル郷土資料展「デジタルアーカイブでむかしの堺に思いを馳せる」公開
5月 1日		堺ライオンズクラブからの電子書籍(251点)の寄贈を受け、電子図書館に「堺ライオンズクラブコレクション」を開設
5月 4日	政府が、改正新型インフルエンザ対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を、5月31日まで延長	
5月 5日	大阪府が対策本部会議にて、5月7日から31日まで、これまでの実施内容を継続すると決定	第11回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催 市主催のイベント自粛や、施設の臨時休館、市立学校園の臨時休業措置期間の延長を決定(～5月31日) 市の決定を受け、市立図書館・図書施設の臨時休館・休室を延長(～5月31日)、主催イベントの中止継続を決定(～6月30日)
5月 13日		分散登校日の実施を決定(市立小学校・中学校・高等学校において、5月18日～22日に1回、25日～29日に1回の登校)
5月 14日	大阪府が、府独自基準を達成し、自粛緩和を発表 政府が、39県の緊急事態宣言を解除(北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県は継続)	

I 新型コロナウイルス感染症の影響について

日付	国などの動き	本市の動き
5月15日		第12回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
5月17日		市の決定を受け、各市立図書館・図書施設に臨時窓口を設置し、事前に来館日時を調整したうえでの予約資料の貸出を開始
5月21日	政府が、大阪府、京都府、兵庫県に対する緊急事態宣言を解除 大阪府が対策会議において、5月23日から博物館や図書館等の施設は各種業務別の対策ガイドラインへの対応が整い次第、順次開館することを決定	
5月22日		第13回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催 市施設について、準備が整い次第、順次再開することを決定 また、6月1日から感染防止策を講じたうえで、市立学校園の段階的再開を決定
5月25日	政府が、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に継続していた緊急事態宣言を解除	
5月26日		閲覧席の利用制限や開館時間の短縮など一部サービスを制限したうえで開館。 大阪コロナ追跡システム導入
6月1日		感染防止策を実施したうえで、市立学校園再開(幼稚園・小学校・中学校・支援学校・高等学校について、6月12日までをスタートアップ期間として分散登校・短縮授業を実施[支援学校は6月19日まで短縮授業])
6月2日		開館時間を通常通りにし、書庫資料の利用などを再開 青少年センター図書室が開室し、一部サービスを再開
6月15日		市立学校園(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)本格再開(通常授業・全員登校)
6月16日		館内滞在時間を30分を目安に、閲覧席の利用や新聞・雑誌最新号の利用などを再開
6月22日		市立支援学校本格再開(通常授業・全員登校)
7月1日		館内滞在時間の目安を1時間に拡大

I 新型コロナウイルス感染症の影響について

日付	国などの動き	本市の動き
12月4日	大阪モデルがレッドステージ(非常事態)に移行	
令和3年 1月7日	政府が、首都圏1都3県に緊急事態宣言を発出	
1月12日	大阪府が、緊急事態宣言が府に発出された場合、施設の20時までの開館時間短縮要請することを決定	
1月13日	政府が、大阪府を含む7府県に緊急事態宣言を発出	第19回堺市新型コロナウイルス対策本部会議開催
1月14日		市の決定を受け、緊急事態宣言中における主催イベントの中止または延長を決定 緊急事態宣言中の南図書館ホール受付終了時間を21時から20時に繰り上げることを決定
1月15日		緊急事態宣言中の電子図書館臨時利用者IDを発行(発行は2月28日まで、利用は4月30日まで)
1月29日		図書郵送サービスモデル実施事業を開始
2月8日	政府が大阪府を含む10都府県への緊急事態宣言を延長(~3月7日)	
3月1日	政府が大阪府を含む6都府県への緊急事態宣言を解除	
3月8日	政府が首都圏1都3県への緊急事態宣言を延長(~3月21日)	
3月21日	政府が首都圏1都3県への緊急事態宣言を解除	

2. 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、堺市立図書館は令和2（2020）年3月2日から5月25日まで臨時休館し、閲覧をはじめとした来館型サービスを一時休止しました。そのため、休止したサービスに係る数値については令和元年度と比較して減少しています。

また、5月26日以降は段階的にサービスを再開しましたが、利用者には現在もなお、短時間での滞在（1時間程度）と利用をお願いしています。

市立図書館主催の行事は、施設環境など各館の事情に応じて、感染防止対策を徹底したうえで9月から徐々に再開していきましたが、市内の感染状況の拡大により、中止または延期となることもありました。

堺市立図書館協議会については、11月に堺市立図書館協議会規則の一部改正を行い、オンラインによる開催を可能にしました。

【臨時休館およびサービス制限中に行ったサービス(令和2年3月2日～5月31日)】

- 電話、インターネットからのレファレンス対応（電話192件、Eレファレンス139件）
（参考：令和元年3月～5月 Eレファレンス5件）
- Twitterによる電子書籍の紹介（投稿件数：79件）
- 電子書籍臨時利用者IDを電子メールでの申込みにより発行（4月8日からの発行者数：722人）
- 堺ライオンズクラブからの児童向け電子書籍の寄贈・公開（5月1日～）（寄贈点数：251点）

（参考）

		3月	4月	5月	合計
電子書籍 貸出点数(点)	令和元年	1,053	924	963	2,940
	令和2年	2,781	5,332	6,267	14,380
	前年比	264%	577%	651%	489%
電子図書館 ログイン数(件)	令和元年	2,435	2,091	2,236	6,762
	令和2年	4,433	10,001	12,929	27,363
	前年比	182%	478%	578%	405%

- 図書館ホームページにてデジタル郷土資料展の公開（4月28日からのアクセス数：38,377回）
- 事前に来館日時を調整した上での予約資料貸出の臨時窓口の設置
（5月17日から5月24日までの貸出者数：8,568人、貸出点数：35,311点）
- 学校配送を利用した学校園への団体貸出（4月・5月貸出配送点数：7,437点）

【来館サービスにおける感染防止対策】

- 窓口・閲覧席などの飛沫防止カーテンやパーティションの設置
- 消毒液の設置
- マスク着用を呼び掛けるポスターの掲示
- 館内放送による啓発
- 館内の定期的な消毒
- 返却資料を1日仮置きしてから棚に戻す(利用者に提供する)
- 大阪コロナ追跡システムの導入
- カウンター受付待ち列の床サイン表示
- 啓発チラシ「感染拡大のリスクを下げるために」(堺市立図書館作成)を貸出時に配布

【イベントにおける感染防止対策】※施設環境など各館の事情に応じた対策を実施

- 会場の変更・換気の徹底
- 開催時間の短縮
- 参加人数の制限(会場収容人数の50%)
- 参加者の連絡先取得(一定期間保管した後、廃棄)
- ソーシャルディスタンスの確保
- 体温測定の実施
- 手指の消毒

○動画配信による講座の実施

- ・郷土資料展記念講演会
- ・ボランティアステップアップ講座

○形式を変えて行事を実施

- ・図書館児童書セット(絵本パック等)の貸出(件数:512件)
- ・図書館紙上おはなし会(リストの配布:6回)
- ・「おうちでおはなしを楽しもう!」ブックフェア(土・日限定)(実施回数:25回)

【中央図書館基本指針への反映】

中央図書館基本指針第5章に「社会や環境の変化に対応する図書館」として、将来起こりうる社会情勢や環境の変化に対応して、どのように図書館サービスを継続して提供するか、具体的な方策を検討していく、としました。

I 新型コロナウイルス感染症の影響について

<全館まとめ>

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比	(参考)開館日数換算対 30 年度比
来館者数(人)	2,223,697	2,001,220	1,382,757	69%	73%
貸出者数(人)	1,004,522	928,797	768,686	83%	90%
貸出点数(点)	4,313,266	3,951,877	3,339,511	85%	91%
予約点数(点)	1,108,130	1,070,527	1,001,721	94%	107%
レファレンス 受付件数(件)	76,278	90,051	61,394	68%	95%
相互貸借借受数 (点)	6,180	4,771	5,138	108%	98%
電子図書館 ログイン数(件)	23,198	26,547	58,101	219%	—
電子書籍 貸出者数(人)	4,956	7,023	13,898	198%	—
電子書籍 貸出点数(点)	9,297	12,992	30,167	232%	—
電子書籍 予約点数(点)	1,526	2,348	8,408	358%	—
開館日数(中央の み・日)	308	285	261	—	—

* 「(参考) 開館日数換算対 30 年度比」は令和 2 年度の各指標値について一日当たりの数値をだし、それに平成 30 年度の開館日数を掛けた後で平成 30 年度の指標値と比べたもの。

Ⅱ 新たなサービス方針

堺市立図書館では、市民ニーズの多様化に対応するため、令和2年7月堺市立図書館がこれまで築き上げてきた基盤の上に時代の変化に対応して今後の大きな方向性を定める「中央図書館基本指針～図書館サービス機能の向上のために～」を策定しました。

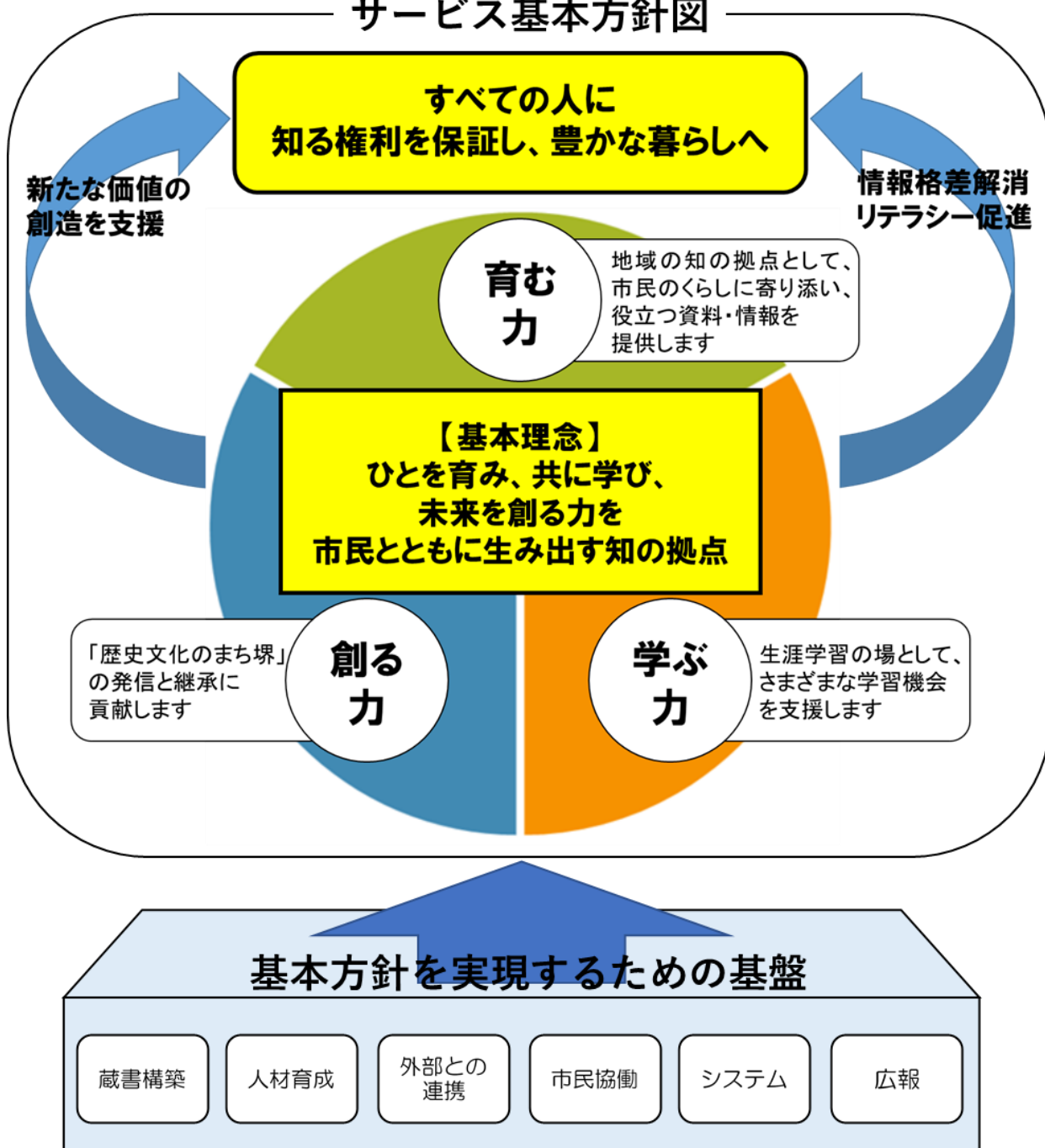
その中で、堺市立図書館は「地域の知の拠点」として、「市民の暮らしに身近な課題、地域の課題を把握し、課題解決に導く資料・情報を提供する」こと、「多様な利用者が気軽に利用でき、自発的な学習・交流が行われるようにする」こと、そして「歴史文化のまち堺」という市民の誇りを支えていくことを目標としています。

そうした図書館の活動が、市民の生きる力を育み、豊かな学びをひろげ、未来を創り出していくこと、その成果が次の世代に受け継がれ、新たな創造を生み出していくことをめざし、基本指針では「ひとを育み、共に学び、未来を創る力を市民とともに生み出す知の拠点」を基本理念として定めます。

また、基本理念のもと、3つのサービス基本方針と9つの具体的方向性により、市民の情報格差の解消、情報リテラシーの促進を行い、新たな価値の創造を支援します。

基本方針(1)【育む力】
地域の知の拠点として、市民の暮らしに寄り添い、役立つ資料・情報を提供します
サービスの具体的方向性
① 市民の読書環境の充実にさらに努めます。
② 暮らしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
③ さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。
基本方針(2)【学ぶ力】
生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します
サービスの具体的方向性
④ 子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
⑤ 学校と連携して学びを支援します。
⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。
基本方針(3)【創る力】
「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します
サービスの具体的方向性
⑦ 堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
⑧ 市民交流の場を作ります。
⑨ 堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

サービス基本方針図



Ⅲ 各サービスの基本方針にかかる評価

基本方針(1)【育む力】

地域の知の拠点として、市民の暮らしに寄り添い、役立つ資料・情報を提供します

図書館は、ひとが幼いころから本に親しむ環境を整備し、豊かな心を育みます。さらに、本を読むことで知識を得たり、さまざまな資料・情報を使って調べることで、変化の激しい現代社会を生きる力を養う場でもあります。

図書館が収集し、提供する資料・情報は、市民の暮らしに役立つものです。暮らしの中でわからなかったり困ったりする課題について、図書館はその課題を持つ市民に寄り添い、資料・情報を活用することで解決する道のりを、具体的にわかりやすく提示します。

サービスの具体的方向性

- ① 市民の読書環境の充実にさらに努めます。
- ② 暮らしに身近なテーマを図書館で調べる・相談できるようにします。
- ③ さまざまな専門家等との連携によるサービスに努めます。

定量的指標・政令市比較	堺市				前年度比	(参考) R1政令市平均	
	H30	R1	R2				
蔵書数	1,894,075	1,896,662	1,896,466	点	100%	2,403,691	点
市民千人あたり	2,285	2,295	2,295	点	100%	1,970	点
年間個人貸出点数	4,240,402	3,886,601	3,299,102	点	85%	5,551,739	点
市民千人あたり	5,115	4,703	3,992	点	85%	4,297	点
相互貸借借受数	6,180	4,771	5,138	点	108%	5,472	点
市民千人あたり	7	6	6	点	108%	4	点
資料費(決算ベース)	98,191	98,500	96,097	千円	98%	135,636	千円
市民一人あたり	118	119	116	円	98%	113	円
レファレンス受付件数	76,278	90,051	61,394	件	68%	92,164	件
市民千人あたり	92.0	109.0	74.3	件	68%	65	件
図書館延床面積	18,572	18,572	18,572	m ²	-	25,995	m ²
市民千人あたり	22	22	22	m ²	-	21	m ²
中央図書館延床面積	4,635	4,635	4,635	m ²	-	9,440	m ²
市民千人あたり	5.59	5.59	5.59	m ²	-	7	m ²
開館日数(中央館)	308	285	261	日	-	297	日

Ⅲ 各サービス方針にかかる評価

	指標	単位	目標値	H30	R1	R2	評価 (数値)	評価	
司書の専門性	職員研修参加延人数（館外研修含む）	人	150	163	155	163	109%	◎	
	司書資格保有率（正規職員）	%	90	88	88	85	94%	○	
市民の読書環境の充実	ブックフェア開催回数	回	360	397	399	412	114%	◎	
広報活動	ゆづりは等の広報物発行回数	回	50	74	89	83	166%	◎	
	広報誌掲載件数、報道提供、新聞への掲載件数	広報さかい	件	-	60	64	25	-	-
		区広報	件	-	84	97	63	-	-
		報道提供・資料提供	件	-	4	6	7	-	-
		新聞への掲載件数	件	-	1	6	4	-	-
		合計	件	150	149	173	99	66%	△
チラシ等発行枚数	枚	59,700	63,246	55,815	15,507	26%	×		
快適な利用空間の提供	来館者アンケート調査「館内の過ごしやすさについて」	-	4	3.89	3.94	3.91	98%	○	
利用者満足度	来館者アンケート調査「全体の満足度」	-	4.0	3.95	4.02	4.04	101%	◎	
多様な学習活動支援	図書館主催講演会等開催回数・延べ参加人数	回	80	35	22	15	19%	×	
	（地域資料記念講演会、堺歴史文化市民講座、課題解決支援講座、市民参加型イベント等）	人	1,300	1,985	1,466	574	44%	×	

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

令和 2 年度の取組みについて

- 「中央図書館基本指針～図書館サービス機能の向上のために～」を令和 2 年 7 月に策定しました。今後は基本指針を基に具体的な施策を行っていきます。
- 令和 2 年 11 月 1 日から、堺市と大阪狭山市において、相互の住民の生涯学習の場を拡大し、教育の向上及び文化の発展に寄与することを目的として図書館の相互利用を開始しました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、定例のおはなし会・読み聞かせ会が長期間中止となりましたが、代替策として紙上おはなし会の実施や児童書のセットを作成して貸出するなど臨機応変に事業を行い、子どもが本に触れる機会を減らさないように努めました。
- 来館しなくても利用できるサービスや図書館の様子などを開館日には必ず堺市立図書館公式 Twitter から情報発信しました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により「絵本から広がる家庭での親子ふれあい事業」での読み聞かせや啓発が実施できませんでしたが、市内子育てサークル等を対象とした、ふるさと納税事業「親子で読書」（絵本パックの貸出）や「親子いっしょに えほんひろば」（司書が絵本パックを持参し、読み聞かせや啓発を行う）は実施しました。なお、「親子で読書」の申し込み団体数は、前年度より 2 団体増加しました。
- 各館では、他部局と連携したブックフェアや展示、専門機関との共催イベントを実施しました。

図書館協議会委員の意見と評価

- 読み聞かせ会はほとんどの学校現場で休止となったが、紙上おはなし会の実施や児童書のセット貸出などの代替手段を工夫していた。
- 堺市と大阪狭山市の2市間において相互利用を開始。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、個人貸出点数やレファレンス受付件数が減少する一方で、堺市と大阪狭山市の2市間においての相互貸出点数が伸びたことは大きく評価できます。
- 長期の休館中に、利用者に資料を届ける工夫(無料の宅配、学校・学童・保育園等へ多量の団体貸出等)を考えてほしい。
- 何と言っても資料費の増額を。
- デジタル情報配信の増加は大変効用が大きい。但しそれによって非来館者が増え、来館者の減少は予想される。
- 休館中の資料提供、情報提供に工夫が求められる。
- 貸出、相互貸借、レファレンスの各数値を開館日数を例年並みに修正すると、対平成 30 年度それぞれ「91%」「98%」「95%」となり、健闘していることが分かる。

委員評価 A:3名 B:5名 C:0名 D:0名

基本方針（２）【学ぶ力】

生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します

図書館は、ひとがその生涯において、いつでも学びに行くことができる場所です。子どものころから図書館に親しみ、ライフステージに応じて図書館を使いこなしていくことで、豊かな学びを持続することができます。また、インターネットなどを通じて、いつでも・だれでも・どこからでも情報にアクセスできるようにすることで、さまざまな学習機会を支援していきます。

サービスの具体的方向性

- ④ 子どもと一緒に安心して、楽しく利用できる環境を整備します。
- ⑤ 学校と連携して学びを支援します。
- ⑥ 青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。

定量的指標・政令市比較	堺市			前年度比	(参考) R1政令市平均		
	H30	R1	R2				
団体貸出点数	72,864	65,276	40,409	点	62%	81,439	点
市民千人あたり	88	79	49	点	62%	66	点
児童書蔵書数	524,307	524,201	518,606	点	99%	618,118	点
市民千人あたり	632	634	628	点	99%	516	点
児童書個人貸出点数	1,647,370	1,505,410	1,246,563	点	83%	1,807,582	点
市民千人あたり	1,987	1,821	1,508	点	83%	1,408	点

Webでの貸出等

	H30	R1	R2	前年度比
貸出期限延長点数	361,783	353,108	316,943	点 90%
市民千人あたり	436	427	384	点 90%
予約点数	829,923	823,045	809,850	点 98%
市民千人あたり	1,001	996	980	点 98%
電子書籍貸出者数	4,956	7,023	13,898	人 198%
市民千人あたり	6	8	17	人 198%
電子書籍貸出点数	9,297	12,992	30,167	点 232%
市民千人あたり	11	16	37	点 232%
電子書籍予約点数	1,526	2,348	8,408	点 358%
市民千人あたり	2	3	10	点 358%

Ⅲ 各サービス方針にかかる評価

	指標	単位	目標値	H30	R1	R2	評価 (数値)	評価
区域の読書活動推進	子どもを対象とした図書館主催事業実施回数・延べ参加人数（おはなし大会、子ども司書講座、児童を対象とした各種講座・堺市図書館まつり等の事業）	回	100	106	94	20	20%	×
	※おはなし会等定例行事は「基本的な図書館活動指標」に記載	人	4,700	5,550	4,900	700	15%	×
乳幼児とその保護者への啓発	「保護者向け講座」平均参加率	%	80	60	88	0 ^{*1}	0%	×
ICTを活用した情報の提供	「本の紹介・ブックリスト」ページ閲覧回数	回	127,400	185,960	163,656	269,844	212%	◎
	新着図書お知らせメール送信点数	点	230,000	244,810	264,803	264,008	115%	◎
区域の読書活動推進 市民の生涯学習の場の提供	子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」延べ参加人数	人	200	195	236	0 ^{*1}	0%	×

※1 新型コロナウイルス感染症の影響により開催できず。

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

令和2年度の取組みについて

- 新型コロナウイルス感染防止対策による臨時休館中、期間限定の電子図書館用臨時IDを発行し、利用者登録をしていない方でもすぐに電子書籍を利用できるサービスをメール申込にて実施しました。休館の影響もあり、電子書籍の貸出者数は、前年度に比べ約2倍に増加しました。
- 図書館資料とあわせて調べものに活用できるよう、無料公衆無線 LAN サービス (Osaka Free Wi-Fi) を開始しました。
- 令和3(2021)年1月29日より図書郵送サービスモデル実施事業(送料利用者負担)を開始しました。3月末までの利用件数は3件でした。来年度は本格実施に向けて事業内容の分析・検討を行います。
- 非来館型サービスの拡充として、講演会、講座等の動画を YouTube で配信できる仕組みを構築し、講座の動画を配信しました。
- 南図書館の多文化資料情報コーナー充実のため、日本語を学ぶために役立つ資料を重点的に収集しました。今後ネット上でのPRや他機関への情報提供を進めます。

図書館協議会委員の意見と評価

- YouTube 配信などの非来館サービスの拡充はコロナ収束後もニーズが高いものだと考える（もちろん来館に勝るわけではないが、多様な生活リズムの方に対応する手段としては有効）。
- メール申込みによる期間限定の電子図書館用臨時 ID の発行。
- 無料公衆無線 LAN サービスの開始。
- 講座の動画の配信。
- 電子書籍の貸出者数が大きく増加している点がとても評価できます。利用者登録をしていなくても臨時 ID の発行は良い試みといえます。
- 送料利用者負担の郵送サービスの結果は残念です。
- コロナだから仕方がないではなく、ネットでの情報収集困難な人への支援の方法を検討する必要があるのではないか。
- 南図書館の多文化情報コーナーは今の時代に必要なサービスと思う。本だけでなく、市役所の他部局とも連携して、生活情報等も合わせて提供してほしい。
- Wi-Fi の開始は調べものをしながら利用できるという点でサービス効果は大変大きい。
- 多文化共生資料を外国人の方々にも確実に届けられる方法の検討を。

Ⅲ 各サービス方針にかかる評価

- コロナ対策の休館時での電子図書の登録、利用が増えたのはよかった。私も利用してみたが、やはり紙媒体の方がなじみがあっていい。簡単な講習会を開いて、使い方活用法などあったらいいと思う。
- 非来館型サービスの拡充、講演会の動画配信はいいと思ったが、いつ申し込むのかなどの情報はこちらから知らないといけない。メルマガ登録で発信してもらえば助かる。
- Webでの予約点数を例年並みに修正すると、対平成30年度「115%」となり、健闘していることが分かる。
- 休館中のリモートサービスについて工夫が必要である。

委員評価 A:4名 B:4名 C:0名 D:0名

基本方針（3）【創る力】

「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します

図書館には、その地域の歴史・文化を伝える資料を残していく役割があります。市民が、堺の歴史文化を学び、世界に向けて発信していけるよう、資料を保存し、活用・発信の手法を整えます。

これからの図書館は、図書館の資料・情報を活用し学習した市民が、その成果を活かしたさまざまな活動、交流を図書館で行えるよう、支援していくことが求められます。

市民が自発的に活動、交流するために、図書館は必要な情報と環境を用意します。テーマに応じて専門家や専門機関、市の関連部局等とも連携し、市民とのマッチングを行うなど、市民交流の場をコーディネートします。

堺の歴史文化を次代に継承して活かしていくうえでも、多様な世代が交流する場を設けることで地域の記憶の継承に繋がります。

そして、資料・情報の活用をもとに、多様な人々が出会い、交流し協働することから新しい価値を生み出す場を作り、新しい堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

サービスの具体的方向性

- ⑦ 堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします。
- ⑧ 市民交流の場を作ります。
- ⑨ 堺のまちづくり・地域づくりのお手伝いをします。

	指標	単位	目標値	H30	R1	R2	評価 (数値)	評価	
堺の歴史文化に関する資料や 市政情報を収集・保存・提供	図書館作成デジタル地域資料閲覧回数	回	3,000	2,098	3,741	7,905	264%	◎	
	地域資料のページ全体の閲覧回数	回	405,000	512,503	341,079	971,589	240%	◎	
	マイクロフィルム化・デジタル化したコンテンツ数	点	3,000	2,192	2,031	790	26%	×	
	郷土資料展記念講演会参加者満足度	%	80	67	83	83	104%	◎	
	「堺歴史文化市民講座」参加者満足度（平均）「とてもよかった」「よかった」の割合	%	80	87	87	87	109%	◎	
市民の生涯学習の場の提供	読書会等への団体貸出点数	点	2,000	2,239	960	1,182	59%	△	
	家庭・地域文庫、公共施設、のびのびルーム等への団体貸出点数	点	26,000	25,109	20,726	7,920	30%	×	
	市民との協働事業実施回数・延べ参加人数（堺図書館サポーター倶楽部、堺メモリー倶楽部、堺図書館ビブリオバトル倶楽部）	堺図書館サポーター倶楽部	回	目標値を設定しない	861	715	151	-	-
		堺メモリー倶楽部	回		2,681	2,283	693	-	-
		堺図書館ビブリオバトル倶楽部	回		25	18	11	-	-
		堺図書館ビブリオバトル倶楽部	回		135	61	51	-	-
市民の生涯学習の場の提供 市民の主催事業の支援	市民主催事業参加者数（子ども夢基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力）	人	目標値を設定しない	1,157	1,381	89	-	-	
市民の生涯学習の場の提供 区域の読書活動推進	「ボランティアステップアップ講座」平均参加率（参加者/定員）	%	80	64	102	96	120%	◎	

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

令和2年度 of 取組みについて

- 図書館作成のデジタル地域資料(電子書籍)の閲覧回数は、前年度に比べ約2倍に増加し、地域資料のページ全体の閲覧回数も約3倍に増加しました。電子図書館の利用増加に伴うものと推測されますが、閲覧ランキングの上位に地域資料が多数挙がることから、利用者の興味・関心の高さがうかがえます。マイクロフィルム化の価格上昇や予算の減少により、マイクロフィルム化・デジタル化が厳しくなっていますが、資料の活用と発信の幅が広げられるよう努めます。
- 堺市立図書館が収蔵する貴重な地域資料のデジタルアーカイブ(絵図、絵はがき、古写真など紙の資料を電子データ化したもの)を活用し、デジタル郷土資料展を実施し、臨時休館中に38,377回閲覧されました。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止として、令和2年度は講座実施に新しい手法を取り入れました。ボランティアステップアップ講座を堺市立図書館で初めてオンラインで開催し、郷土資料展記念講演会は会場の定員を大幅に減らして実施し、後日オンラインで講演の録画を動画配信しました。今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施しながら行事を開催できるよう、様々な手法を導入していきます。
- 堺図書館サポーター倶楽部創立20周年記念事業として、記念講演会と巡回パネル展を開催しました。講演会は録画して、後日各区域館で活動しているサポーターが視聴できるようにしました。また、サポーター活動を紹介した展示パネルを作成し、中央図書館をはじめ各区域館で巡回展示を行うことにより、日頃図書館の運営にご協力いただいている図書館サポーターの活動を広く図書館利用者に知っていただくことができました。

図書館協議会委員の意見と評価

- 百舌鳥古市古墳群が世界遺産に登録され、ますます堺市が有する歴史的な地域資料が注目を集めることになる。小中学生にももっと興味関心を持ってもらえる閲覧方法を工夫してほしい。
- デジタルアーカイブを活用し、デジタル郷土資料展の実施。
- 堺の歴史文化に興味や関心が高い方が多いことを理解したうえで、デジタルアーカイブの閲覧回数が多いことに驚きました。コロナ禍により、インターネットを利用できる方が増えているので、今後も講演会や展示会のWeb配信回数を増やして頂きたいです。
- 古墳群の世界遺産登録にあわせて堺の歴史的遺産の魅力の発信により一層努めてほしい。子ども向けの発信や、一般向けにマンガやクイズ等、やわらかい様々な切り口で、魅力を伝えることも必要では。
- デジタル資料や動画の閲覧増加は感染症流行に、市民の関心と図書館のサービスが合致した結果だと思います。
- マイクロデジタル化が予算的に厳しいことは残念。資料データベースの公開は市民だけでなく、全国へ堺市図書館を発信しうる最有力な方法です。
- 古文書や古典籍のリテラシー育成の一環を担っては如何でしょうか。
- 「マイクロフィルム化・デジタル化」の予算減少、残念です。歴史の街、堺市は貴重な地域資料として、将来に向けても残す義務がある。関係者にもぜひ理解をしていただき、予算を獲得してほしい。それには、活用と発信を広めて理解してもらうことが大事だと思う。
- 図書館のデジタル資料、学校、博物館、地域のコミュニティ等でも大いに利用して色々な場に活用して、広く市民にも知ってもらえたら、と思う。

Ⅲ 各サービス方針にかかる評価

- リモート利用が大きく増加している。社会全体がネットを利用した情報収集に習熟してきていることが分かる。デジタル地域資料はリモート利用に最適である。

委員評価 A:3名 B:5名 C:0名 D:0名

IV 令和2年度 各図書館の取組み状況

各区ではそれぞれ地域の実情に応じた取組みを行っています。次ページからは、令和2年度の取組みについて、各図書館でページを作成しました。

*数値について

- 人口は堺市推計人口（令和3年4月1日現在）
※令和2年国勢調査結果の速報値を基礎として推計された数
- 人口以外は令和3年3月31日時点
- 「協力貸出点数（借受）」には提供不可の点数を含む（各区とも共通）
- 「（参考）開館日数換算対30年度比」は令和2年度の各指標値について一日当たりの数値をだし、それに平成30年度の開館日数を掛けた後で平成30年度の指標値と比べたもの。

令和2年度 各図書館の取組み状況 (堺区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	819,257	769,026	674,856 点	88%	97%
区民千人当たり	5,540	5,190	4,539 点	87%	97%
予約点数	59,158	53,151	40,467 点	76%	81%
区民千人当たり	400	359	272 点	76%	80%
レファレンス受付件数	24,677	27,894	24,002 件	86%	115%
区民千人当たり	167	188	161 件	86%	114%
協力貸出点数(借受)	1,325	1,210	1,414 点	117%	126%
区民千人当たり	9	8	10 点	125%	131%
来館者数	500,823	461,821	320,152 人	69%	75%
区民千人当たり	3,387	3,117	2,153 人	69%	75%

※人口 148,682 人(令和3年4月1日時点)

※堺市駅前分館を含む

今年度の目標

新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、以下の目標を達成します。

- 中央図書館として、以下の目標に取り組みます。
 1. 市街地の新しいサービス拠点として、堺東駅前にサテライト型の図書サービスコーナーを整備し、令和3年4月からの開館をめざします。
 2. 非来館型サービスの拡充として、インターネットなどを用いた動画配信など、情報提供の仕組みを構築します。
- 堺区の図書館として、以下の目標に取り組みます。
 1. 直接的な学校支援が不可能となっているため、図書館見学を動画で実施します。
 2. 郷土資料展および記念講演会を実施します。動画配信による参加も含め、参加者目標を60人とします。

取組み結果

- 中央図書館としての取組み結果
 1. 市街地の新しいサービス拠点として、堺東駅前にサテライト型の図書サービスコーナー「図書館カウンター堺東」を整備し、令和3年4月からの開館に向け準備をすすめています。



2. 非来館型サービスの拡充として、講演会、講座等の動画をインターネット(YouTube)で配信できる仕組みを構築し、郷土資料展記念講演会およびボランティアステップアップ講座の動画を配信しました。また、1月29日より図書郵送サービスモデル実施事業(送料利用者負担)を開始しました。(3月末までの利用件数:3件)

3. その他

イベントの開催が難しい中、子ども読書活動推進事業として、12月13日に堺っ子読書フォーラム「学校図書館～本と出会う場所～」を、感染対策の徹底を図りながら開催しました。中学校学校司書の取組みについての実践報告のほか、清教学園中・高等学校教諭である片岡 則夫氏を講師に迎え、「おためし読書」についてお話いただきました。子どもの読書活動に関わるボランティア、学校図書館司書、学校園の教諭等31名が参加し、児童・生徒が公共図書館へ来館することが難しくなっている状況下、学校や学校図書館でできる気軽で楽しい取組みの紹介が好評でした。

● 堺区の図書館として、以下の目標に取り組みました。

1. 図書館見学や学校訪問などが不可能となっている中、学校への団体貸出については、臨時休館中も途切れず実施しました。夏休みが短く、ゆっくり本を選ぶ時間がない児童・生徒に向け、夏休みおすすめのブックリストを作成してHPに掲載したほか、図書館見学を動画で実施できるよう、準備をすすめています。また、おはなし会などの定例行事が休止となり、子どもが絵本やおはなしに触れる機会が減っていることから、「おうちでおはなしを楽しもう」と題し、ミニブックフェアを25回実施したほか、未知の本に触れるワクワク感を提供できるイベントとして「図書館海賊からの挑戦」「ほんのくじびき」を実施しました。

2. 「図書館海賊からの挑戦」は宝島をめざす地図に本に関連するクイズを配置し、本を使って調べながらゴールをめざすイベントです。地図は90枚配布し、幼児から小学生まで多くの子どもが参加してくれました。「ほんのくじびき」は、セットにした本に番号を割り振り、くじでひいた番号のセットを貸出すイベントで、23セット貸出されました。クリスマスの時期には、「クリスマス絵本ブックフェア」と並行して「絵本アドベントカレンダー」と称し、1日1冊のクリスマス絵本をtwitterや子育て応援アプリに掲載するなど情報発信に努めました。

3. 郷土資料展「浜寺物語」および記念講演会「浜寺物語 阪神間モダニズムと阪堺文化」(11月29日、講師:橋爪紳也氏)を実施しました。郷土資料展への来場者は519人、講演会は感染拡大防止のため、定員を従来の半分以下とし、当日参加者は25人となりました。しかし、今回初めて講演会の動画を作成し、後日申込者74人にオンラインで視聴していただくことができました。当日参加の方のアンケートでは、9割の方が「とてもよかった」「よかった」と回答されました。



図書館海賊からの挑戦(子ども室)



郷土資料展記念講演会

新型コロナウイルス感染症の影響

〔予約資料の貸出〕



予約資料貸出臨時窓口(中央図書館)

臨時休館中、5/17～24の期間、臨時窓口を設置し、貸出を行いました。

中央図書館はロビーにて、堺市駅前分館はエントランスにて行いました。

	貸出人数	貸出点数
中央図書館	990人	4,067点
堺市駅前分館	635人	2,813点

形式を変更して実施した行事・イベントなど

1. おはなし会などの定例行事が休止となり、子どもが絵本やおはなしに触れる機会が減っていることから、中央図書館子ども室で「うちでおはなしを楽しもう」と題し、ミニブックフェアを25回実施しました。

未知の本に触れるワクワク感を提供できるイベントとして、堺市駅前分館で、年齢別にテーマごとのおすすめ本をセットにした本を貸し出す「夏のおたのしみセット」、子ども室で「図書館海賊からの挑戦」「ほんのくじびき」を実施しました。



夏のおたのしみセット

2. 中央図書館でのおはなし会については、換気、消毒、検温、椅子の設置で参加者同士および実演者との距離をとるなどの工夫をし、10月、12月、3月にそれぞれ1回ずつ実施しました。実演はマスクを着用した職員が行い、距離をとっても見やすい大型絵本の読み聞かせをプログラムの中心とし、手遊びや参加者の唱和がないプログラムとしました。10月と12月は定員を超える申し込みがあり、「次はいつですか？」と開催を楽しみにしてくださっている方もおられました。会場の様子やマスク着用での実演に参加者が戸惑った様子はなく、小声で反応してくださる場面もありました。貸出用の本を複数冊ずつ用意していましたが、ほとんどが貸し出され、利用推進につながりました。

3. 堺図書館サポーター倶楽部創立20周年記念事業を実施。

記念講演会『ベストセラー作家が語る図書館「超」活用術—堺市民として—』は、講師に奥野宣之氏を迎え、堺区の図書館でサポーターとして活動している方を対象に実施しました。当日の参加者は10人でしたが、この講演会を動画として録画し、各館で活動しているサポーターが各区域館で視聴できるようにしました。また、各図書館のサポーターの活動をパネルにまとめ、中央図書館をはじめ、各図書館で展示できるよう企画・調整しました。

図書館協議会委員の意見

- 夏休みおすすめのブックリストを作成し、HPを通じて子ども達に発信した試みはいいと思う。
- 「クリスマス絵本ブックフェア」と同様に、今後日本の年中行事に即した絵本ブックフェアを企画されたらどうでしょうか？例えば、ひなまつりや七夕など。
- 新型コロナウイルス感染拡大の中で職員のみなさまに感謝いたします。中央図書館の建て替えを要望します。
- 学校支援について考慮いただき、ありがとうございます。学校図書館自体も感染防止対策を講じながらの開室にあたり苦慮しており、公立図書館として工夫されている点の情報の共有ができればなおありがたく存じます。
- 中央図書館所在地へのアクセスを不便と感じている市民にとって堺東駅前のサテライト施設は有効に活用いただけると評価します。
- 堺東駅前にサテライト図書サービスコーナーの整備。今後も要所要所に増えれば良いと思います。
- 堺東駅前のサテライト図書サービスコーナーが実現されたことは素晴らしい第一歩だと思う。先進事例の成果を検証し、中百舌鳥駅や鳳駅、泉ヶ丘駅など主要駅前への設置の実現につなげたい。
- インターネットによる動画配信の拡充は大変よいサービスと思いますが、図書館見学も展示・講演会もやはり現場で見聞きしてこそ意味あるものと思いますので、そのところ本末転倒にならないようにと願います。また職員の労力が配信のために費やされ過ぎないように、はやく単純作業化されるよう願います。
- 非来館型サービス…インターネット配信などの工夫は、この機会だからこそできたものだと思う。この機会にブックフェアを増やすなどの働きかけはよかったと思う。
- 色々なイベント、おはなし会がない中、工夫されたのは、いいと思う。コロナで、図書館の利用がままならないときは、有効に思えるが、開館することが出来たときは、その催しの意味はどうだろうか。
- 中央図書館としての目標2の非来館型サービスの拡充について、図書館利用に障害のある利用者へのサービスを常に心がけてほしい。図書郵送サービスモデル事業(有料)を開始したとあるが、障害者・高齢者・病気の方等来館困難利用者に対して無料で実施すべきだと思う。講演会の動画配信は大いに進めてほしい。PRが足りない。
- 郷土資料展「浜寺物語」の実施。これからもいろいろな郷土資料展を実施してほしい。
- コロナ禍の中、図書館・司書が工夫してサービスを実施している点に感謝申し上げたい。また、非来館型サービスとして、動画配信を積極的に実施しようとしている点がとてもよい。
- コロナ禍で、あれこれ工夫を凝らしてサービスを考えて実施したことは評価しますが、府内の中では閉館しないで開館していた図書館もあり、閉館しないで開館する工夫・努力もしてほしい
- 動画配信や感染症防止対応を行ったイベントの開催はコロナ下だけのことではなく、開館平常時におけるより一層細やかなサービスを行う配慮や技能につながっていくものと思います。
- 図書郵送サービスの低廉化→無料化の検討。

令和2年度 各図書館の取組み状況 (中区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	447,434	402,505	325,931 点	81%	86%
区民千人当たり	3,644	3,299	2,697 点	82%	87%
予約点数	24,158	20,622	16,257 点	79%	79%
区民千人当たり	197	169	135 点	80%	81%
レファレンス受付件数	6,077	5,389	4,070 件	76%	79%
区民千人当たり	49	44	34 件	77%	81%
協力貸出点数(借受)	604	451	480 点	106%	96%
区民千人当たり	5	4	4 点	100%	99%
来館者数	222,869	196,558	151,537 人	77%	80%
区民千人当たり	1,815	1,611	1,254 人	78%	82%

※人口 120,857 人(令和3年4月1日時点)

※東百舌鳥分館を含む

今年度の目標

新しい生活様式に対応したサービスの提供に重点的に取り組み、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら以下の目標を達成します。

- 職員全員が危機管理意識を共有するための研修などを実施し、各種のリスクに備えます。
- 子ども向けの定例行事再開の実施方法を検討し、児童サービスの停滞を回復します。
- 中区役所や教育センターなどの関係部局と連携を図り、協力して事業や相互の認知度向上のための取組みを行います。年間5回以上。

取組み結果

- イベントの実施について、対策を行った上で利用者が楽しめる方策について検討・試行を行いました。また職員研修として避難訓練を行い、火事や地震など災害時の避難経路・消火設備の把握を行いました。

- 子ども向けの行事が中止になるなか「親子いっしょにえほんひろば」に子育てひろば3箇所から申し込みがあり、職員が出向いて絵本の読み聞かせを行いました。図書館を利用したことがない方へも、乳幼児期からの親子での絵本の楽しみ方などの啓発を行うことができました。



うきうきルーム(子育てひろば)

- 外部との連携は昨年度に続き、中保健センターと協力し健康ミニブックフェア(年7回)を行い、ブックリストを作成・配布しHPへも掲載しました。中区役所企画総務課の「子どもの読書環境の充実事業」昨年度の入賞作品のPOPの展示(7月・8月)に協力しました。また、中基幹型包括支援センターとは認知

症ブックフェアとパネル展示(9月)・介護予防のパネル展示(10月)を行いました。併設の「平和と人権資料館」の企画展に合わせて関連資料の展示とパネルを展示(11月・12月)し、相互の事業PRに貢献しました。



保健センターブックフェア



介護予防パネル展示



平和と人権資料館展示

新型コロナウイルス感染症の影響

〔開架資料の配架〕

- 感染予防のため返却資料は24時間事務室に留めてから配架を行っているため、置き場が不足し、ブックトラックやコンテナ等に仮置きしました。
- 来館者同士が密にならないよう、閲覧席の間隔を開けたため座席数が減少し、会議机で仮の閲覧席を一部設定しました。また、閲覧机には飛沫防止のためにパーテーションを設置しました。
- インターネット閲覧端末の利用回数を制限したことで、新たな利用者が増えました。

形式を変更して実施した行事・イベントなど

1. 「おはなし室」を使った定例での「おはなし会」が開催できないため、令和2(2020)年10月～令和3(2021)年1月の間に試行的「おはなし会」を4回開催しました。ソフィア塚図書館棟1階多目的スペースを使用し、感染予防のため、参加者の定員を減らした上、検温・連絡先の把握、消毒や換気を徹底して行いました。



2. 「えほんおたのしみパック」の貸出



「おはなし会」中止の代替行事として、3月20・21日に実施しました。乳幼児・幼児・小学生低学年向けの絵本3冊を福袋のように書名が見えない形のパックを作成し貸出できるようにしました。

絵本の選定や飾りつけにあたっては、読み聞かせなどボランティアグループおよび子ども司書・図書館サポーターの方々の協力を得ました。年齢別に3種類のパックを作成・展示したところ、幼児と小学生の反応が良く、用意した全60パックのうち、47パックが貸出されました。子どもたちが喜ぶ工夫をすることで、利用拡大に繋がりました。

図書館協議会委員の意見

- 館内での閲覧について感染対策を講じられ、机、いすの配置をよく工夫されていると評価します。利用しやすいです。
- 日常的にブックフェアを開催されており、実際に資料を手にしやすい展示のしかた、POP類などの工夫がよくなされていると評価します。興味がわき、次回は何かと楽しみです。
- 人口あたりの貸出やレファレンス件数がやや低いところがある。この点について、貸出やレファレンス件数などの関連項目を、目標のどこかに設定(或いは関連付け)が必要ではないか。継続性がある図書館に来てもらうような企画が必要と感じる。
- 中区に限らず、感染症下、返却図書は一定の消毒時間のための置き場を必要とし、いずれもその場所や仮置き方法に苦心されています。また閲覧席の間隔を開けたため座席が減少したり、自習スペースがなくなったりしています。図書館には一見無駄と思えるほどの広いスペースが今後必要だということ実感しました。
- 危機管理意識を共有しつつ、子ども向けの定例行事の実施方法を検討してゆき、今までしていた関係部局と連携して取組みをしていくのは、とてもいいことだと思う。取組み結果で、区役所企画総務課の「子ども読書環境の充実事業」、包括支援センターとの「認知症、介護予防関連の展示」「平和と人権」の展示とパネル展示は関連資料がある図書館とのコラボができる、ということで、これからもこういったことを進めていってほしい。
- 場所を変えて、おはなし会を実施したことはよかった。コロナだからできないではなく、どうしたらできるかを追求することは大事。目標2の「児童サービス停滞を回復します」に本気で取り組もうと思ったら、館内の取組みだけでは無理。出かけていくサービスをめざすべき。
- 教育センターとの連携は大いに進めてほしい。学校の教師に役立つ情報提供・研修機会の提供に努めてほしい。
- 人口に比して貸出数の少なさは気になるが、職員出向の読み聞かせや他機関との連携ブックフェアなど積極的であり、それらが貸出数などにどう反映されているか検証が必要。
- 「外部との連携」立地上の利を生かしてできることなので、お互いの場を生かして今後も外部との連絡を取りながら、ブックフェアをしてください。

令和2年度 各図書館の取組み状況 (東区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	453,572	420,687	350,174 点	83%	91%
区民千人当たり	5,361	4,976	4,121 点	83%	91%
予約点数	38,540	33,301	25,235 点	76%	77%
区民千人当たり	456	394	297 点	75%	77%
レファレンス受付件数	12,472	11,055	6,291 件	57%	60%
区民千人当たり	147	131	74 件	56%	59%
協力貸出点数(借受)	698	602	582 点	97%	101%
区民千人当たり	8	7	7 点	100%	103%
来館者数	372,539	335,270	197,501 人	59%	63%
区民千人当たり	4,404	3,966	2,324 人	59%	62%

※人口 84,968 人(令和3年4月1日時点)

※初芝分館を含む

今年度の目標

新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、市民の暮らしに役立つ資料・情報の提供に重点的に取り組み、以下の目標を達成します。

1. 魅力ある棚づくりのため、ブックフェアなどの取組みを推進します。
2. おはなし会・課題解決支援講座などの行事について、従来のやり方にとらわれず、新しい生活様式の下での開催を模索し、実施します。

取組み結果

1. 魅力ある棚づくり

- ビジネス書コーナーの新刊コーナー、ブックフェアコーナーのレイアウト変更と拡張を行いました。また、10月よりHPで「ビジネス書コーナー 新着資料一覧」の公開を始めました(月初めに更新)。
- ティーンズコーナーの面展(表紙見せ)を増やすなど、レイアウト変更と拡張を行いました。登美丘高校との連携によるPOPを利用した展示は今年度も継続し12月に入替を実施、新たに登美丘高校図書委員会発行「とみかぜ」(年3回)の掲示と関連資料の展示を始めました。
- 初芝分館で地域資料コーナーの整備を行いました。
- 定例ブックフェアに加え、東区保健センターとの連携で4回のブックフェアを行いました。また、感染拡大防止のため使用していない閲覧スペースを利用して、「年末年始はおうちで読書」企画の一つとして「今こそ名著・大作にチャレンジ」と題し、200冊程度を展示しました。



ビジネス書コーナー



ティーンズコーナー



「おうちで読書」ブックフェア



2. 新しい生活様式下での行事開催

- 東図書館のおはなし室は窓がなく、換気も難しいため、おはなし会など定例の行事はなかなか開催することができませんでした。10月に閲覧室内じゅうたんコーナーで感染対策を行いながらおはなし会を試行的に実施しました。次年度からは東図書館・初芝分館ともに定例化に向け再開する予定です。
- 実施が難しい乳幼児向けの行事の代替として、「おうちで赤ちゃん絵本の会」と題し、絵本をセットにして貸し出すサービスを始めました。11月に試行実施を2回、12月以降月に1回、各回12セットを準備して希望者に貸出を行いました。バッグは、消耗品費で不織布バッグを30枚(3色)購入し、動物のイラストを貼りました。袋は本とあわせて返却いただき、イラストを貼りかえて再利用しています。本のほかに、ブックリストとよみきかせのアドバイスも入れました。当面行事の実施が難しいことが見込まれるため、次年度は複本の購入も進めながら、継続して実施する予定です。
- 「年末年始はおうちで読書」企画の一つとして「書庫で本を選んでみよう」を実施。8名の参加がありました。3月には「図書館の使い方講座」を実施し、OPAC(館内検索機)について学んでいただく機会を設けました。感染症対策のため2回に分けて実施し、7名の参加がありました。



じゅうたんコーナーでおはなし会



赤ちゃん絵本を5冊セットして貸し出しました

3. その他

- 昨年度から実施している学校図書館チーム支援事業については、年度当初は中止していましたが、区内4校の3年生を対象にのべ49時間の訪問を実施しました。感染拡大防止のため、図書室を使わず教室で行うこともあり、全員が授業を楽しむため複本使用やプログラムの変更を行いつつ実施しました。



新型コロナウイルス感染症の影響

(利用状況概数 前年度比)

- 来館者数: 59%

下記、(閲覧席)の項に記載したように、机のある席を減らしたことが大きく影響していると考えられます。

- 新規登録: 74%

大阪狭山市民対象の広域貸出が11月に開始し、隣接する東図書館には3月までに168名の登録(全市登録の62%)がありました。大きく落ち込みました。

- 貸出点数: 83%

年代別で見ると子ども(0歳から12歳)への貸出点数が74%と大きく落ち込んでいます。ただし、団体貸出点数は102%と微増しており、学校園からの要求は一定満たすことができたと考えられます。

子どもの来館を促すのは難しい状況にありますが、ブックフェアやブックパック、リストの整備などで代理で来館した保護者が本を選びやすい環境をととのえるなどの取組みを続けていきます。

- 予約受付: 76%

館内OPACでの予約受付は70%に減少しました。来館者の減少が影響していると思われませんが、今年度実施の「図書館の使い方講座」では7名全員が「とてもよかった」「よかった」とアンケート回答しており、利用者を増やすための取組みを継続していく必要があります。

(会議室)

東図書館の会議室(約24平方メートル)は出入り口が1カ所、窓がない構造で換気が難しいため、週に1回だった図書館サポーター活動を週に2回にして時間を短くする、6人以上で集まることが必要なボランティア連絡会や読書会は館内整理日に閲覧室を利用させていただくなど、団体の事情に応じて利用方法の変更をお願いしました。

(対面朗読サービス)

対面朗読室は換気が難しいため、会議室利用の条件のもとでサービスを受けてもらうこととしました。緊急事態宣言時などは視覚・聴覚障害者センターを案内しました。なお、別部屋で対面せずに朗読サービスが提供できるように対面朗読用のパソコンを設置し、当サービスを継続してきます。

(閲覧席)

東図書館は席数が117席と他館と比較して著しく多く、従来より自習目的の利用が多い状況にあります。混雑や長期滞在を避け、閲覧希望の方の席を確保するため、机ありの席を2割以下に減らし、自習禁止としました。椅子のみの席は当初間隔をあげ、5割程度に減らしましたが、満席状態が続いたため、9月2日以降は壁沿いなどに椅子を新たに設置して対応しました。

来館者数の減少が他館と比較して大きいことは、自習目的の利用者の減少によるものと考えられます。閲覧席に関しては、感染状況や利用者の様々な要望を考慮したうえで今後も検討していく必要があると考えています。

形式を変更して実施した行事・イベントなど

1. おはなし会
換気の難しいおはなし室ではなく、じゅうたんコーナーでの
おはなし会を10月に試行実施しました。
今後、継続的に実施予定です。
2. 乳幼児向けおはなし会
代替サービスとして、11月よりブックパックの貸出を開始しました。
3. 「年末年始はおうちで読書」を実施しました。
・「書庫で本を選んでみよう」
・個別ブースを利用したブックフェア「今こそ名著・大作にチャレンジ」



図書館協議会委員の意見

- 「赤ちゃん絵本5冊セット」の袋がとても可愛いです。利用者側としては大事なアイテムだと思います。
- これまでは目当ての本を見つけにその本のありそうなところへ直行するのですが、「魅力ある棚づくり」で通路を歩いていて、ふとそこで本(目当て以外の本)を手にしたくなるような取組みはぜひ継続していただきたいです。利用者や市民全般のニーズをよく調査されるとともに、利用実態などを反映され、いろいろと試みてほしいと願います。
- 閲覧したくても混雑していて(混雑しているような雰囲気)利用しづらいというのは工夫改善願いたいです。
- 定量的指標では、他区と比較し、人口から見てサービス指標が大きい点を評価する。
- これまで図書館における自習席には様々な意見があると思うが、新型コロナにより生活様式が変わって、利用者の居場所やリモートワークが増えている状況等も考えると、資料の利用だけではなく、図書館が提供する施設・設備の利用という点で、自習席は利用者が今必要としているサービスであると感じる。コロナ禍で長期滞在やモノの共有を考えると難しい側面もあるが、何等かの検討が必要と感じる。
- 幼児向けのお話し室や対面朗読室に窓がなく換気が悪いというのは驚きました。図書館における換気はおはなし室や対面朗読室に限らず、今後図書館設計において注意されるべき問題だと感じました。
- 魅力ある棚づくりやブックフェアは、利用者にとっていいと思う。東図書館の特徴であるビジネス書コーナーで、新着資料一覧の公開は、そこに行けなくても情報を得ることができていいと思う。
- ティーンズコーナーの拡張と、登美ヶ丘高校との連携がより深まっているようで、高校生たちもやりがいを持てるし、同じ世代の子どもたちも興味を持って見ることができていいと思う。閲覧席の多い東図書館の工夫がよくわかった。
- 形式等を変更した行事等、色々工夫されていていいと思った(書庫で…、乳幼児のブックパック、お話会の場所等)。
- 高校生を巻きこんでのYAサービスは興味深いし、効果があると思う。ブックフェアもよいが、日常的な普通の書架の中でも、表紙見せを取り入れたり、図書館の棚全体の魅力的な棚づくりに取り組んでほしい。
- HPで「ビジネス書コーナー 新着資料の一覧」を公開しているのはとても有難いと思う。

Ⅳ 令和２年度 各図書館の取組み状況

- 駅近で、利用しやすく、座席数も多くて書架も見やすい。高校生を巻き込んでYAサービスは今後も続けてほしい。
- 平年は人口に比して貸出点数・来館者数の多い所ですが、コロナ下での来館者数の減少が目立ちます。ビジネス書、ティーンズコーナーでの高校との連携、出向授業など特色ある取組み効果あること期待します。
- 「魅力ある棚づくり」登美丘高校との連携の展示、ビジネス書コーナーの棚の工夫等、いいと思う。

令和2年度 各図書館の取組み状況 (西区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	396,017	355,668	285,973 点	80%	87%
区民千人当たり	2,923	2,634	2,119 点	80%	87%
予約点数	23,650	21,990	15,534 点	71%	79%
区民千人当たり	175	163	115 点	71%	79%
レファレンス受付件数	4,360	5,717	3,211 件	56%	89%
区民千人当たり	32	42	24 件	57%	90%
協力貸出点数(借受)	487	454	452 点	100%	112%
区民千人当たり	4	3	3 点	100%	100%
来館者数	161,909	146,605	109,384 人	75%	81%
区民千人当たり	1,195	1,086	811 人	75%	82%

※人口 134,941 人(令和3年4月1日時点)

今年度の目標
<p>西図書館の特色を活かした情報提供と図書館機能拡充に重点的に取り組み、以下の目標を達成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「西区子育て・教育環境整備事業」により、区民の学びや活動を支える資料や場を充実させます。 地域や専門機関と連携した資料収集や相談事業、区民の身近な場での情報提供を行います。 新しい生活様式に対応した環境改善や図書館活動の再構築を行います。

取組み結果
<p>1. 西区子育て・教育環境整備事業として、書庫増床、多目的会議室の活用による読書・学習環境の充実を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下記を目標として、鳳保健文化センター2階の整備を進めました。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 児童・学校支援資料や地域資料を中心に約5万冊可能な書庫の増設を実現し、学校・学校図書館職員、地域活動を支援する環境整備を行います。 ➢ 25人から100人収容可能な会議室とオープンなラーニングスペースを設け、ボランティア活動、各種事業に利用可能な場を設置してあらゆる年代が図書館を主体的に活用する環境を整備します。 ➢ プレスクールゾーンを設置し子どもと一緒に安心して集う場を整備するとともに、授乳室、対面朗読室も新たに設置して、すべての人が快適に利用できる空間を提供します。



2. 専門機関、専門家と連携して身近な地域で事業を行いました。

- 大阪府看護協会と共催で健康相談事業「まちの保健室」を9月から月に1回実施しました。「ミニおはなし会・健康相談会」として安心して親子で参加できる機会となるとともに、改装するフロアでの定期的な健康相談事業に繋がっていきます。
- 総合医療センター内のがん相談支援センター主催のオンライン講座「ほのほのカフェ」において、テーマにそった資料の紹介を行いました。
- 学校や地域会館での保健センターのがん検診や脳トレ教室において情報提供をしました。
- 「セカンドステージ応援コーナー」を設置し、医療・福祉関係機関と連携して資料を充実させてきた取組みについて、全国図書館大会和歌山大会の場で報告し、人材育成を行いました。
- 小学校への認知症学習で地域包括支援センターに資料提供を行い、図書館で福泉小学校3年生による学習成果の展示を行いました。



まちの保健室



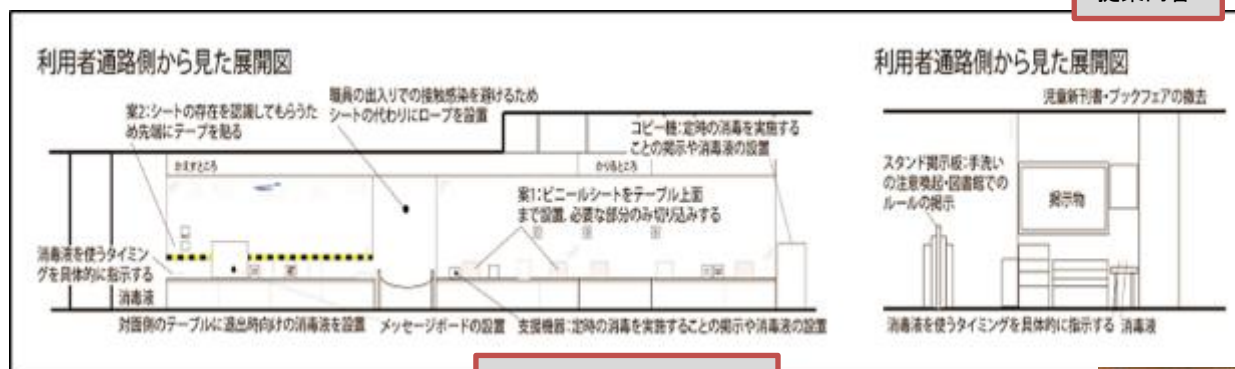
認知症キッズサポーター養成講座学習の成果の展示

3. 新しい生活様式に対応した環境改善を行いました。

大阪大学の松原茂樹氏の協力を得てオンラインツールによる「キャプション評価」を行いました。建築や公衆衛生の専門家による提案を受けて、椅子や展示棚の配置見直し、カウンターの感染予防、接触回避での情報提供（QRコード、オンライン誘導）など、感染防止の観点を中心とした新しい生活様式に対応した環境改善を行いました。

* キャプション評価（環境評価手法） 施設を利用する人がそれぞれ気になる場所や物を写真に撮り、それらにキャプション（説明）を付けることにより、その場所（施設）の評価をする。参加・行動型の調査方法

提案内容



館内での感染症対策の明示



提案を受けて改善したカウンター状況



新型コロナウイルス感染症の影響

・利用状況について

貸出点数 80% 来館者数 75%(前年度比)

● 児童書

赤ちゃん絵本(101%)、ちしきのほん(101%)と微増し、むかしばなし絵本は(70%)に減少しました(数字は一日あたりの前年度比)。これらは感染を警戒して保護者が短時間で選びやすい(赤ちゃん絵本コーナー)ことや、読ませたい本(ちしきのほん)を選んだことと、おはなし会が実施出来なかったことや、じゅうたんコーナーへの出入りを控えるケースが原因かと考えています。状況が変化しないようであれば、配架場所を検討していきます。

● 年齢別

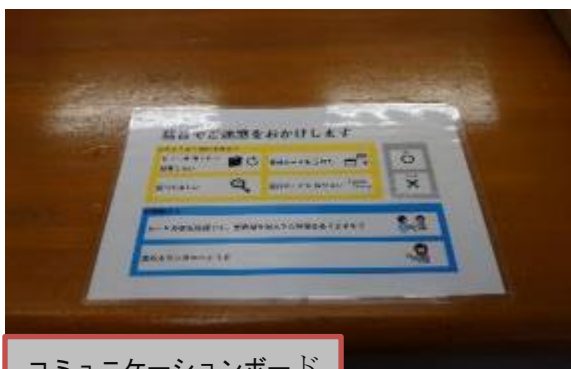
16～39歳 7～12歳の年齢層の利用が減少。児童だけの利用や保護者と児童での利用が多い世代が減少傾向でした。

● 団体貸出

「浜寺公駅駅舎(カフェ・ライブラリー)」「視覚聴覚支援センター内ひといき」など、地域読書拠点施設の活動停止により減少しています。

● レファレンス

受付件数は対前年度比 56%の減少でした。感染状況だけではなく、改修工事の騒音も影響していると考えられます。カウンターでの会話が困難な状況への対策として「コミュニケーションボード」による案内や対話支援機器「comuoon(コミュニケーション)」を借用し対応の工夫を行いました。(来館者アンケートの満足度については昨年度 3.69 から今年度 3.70 へ微増)



コミュニケーションボード



対話支援機器「comuoon(コミュニケーション)」

形式等を変更して実施した行事・イベント等

● 児童対象行事について

従来実施していた「赤ちゃんといっしょ」「あつまれ！絵本のお部屋♪」の開催が中止されている中、令和2(2020)年10月に0～1歳児対象、11月に2～3歳児対象の読み聞かせ行事として感染対策を行い、事前申込制で実施しました。密を避けるため、おはなし室を使用せず、じゅうたんコーナーでソーシャルディスタンスに留意し、「まちの保健室」と併せて実施しました。大阪府看護協会から看護師、保健師を派遣していただき、乳幼児に特化した家庭での感染予防対策のおはなしや健康相談も交えることにより、親子で行事に参加されている方々に安心感を持っていただけた様子でした。

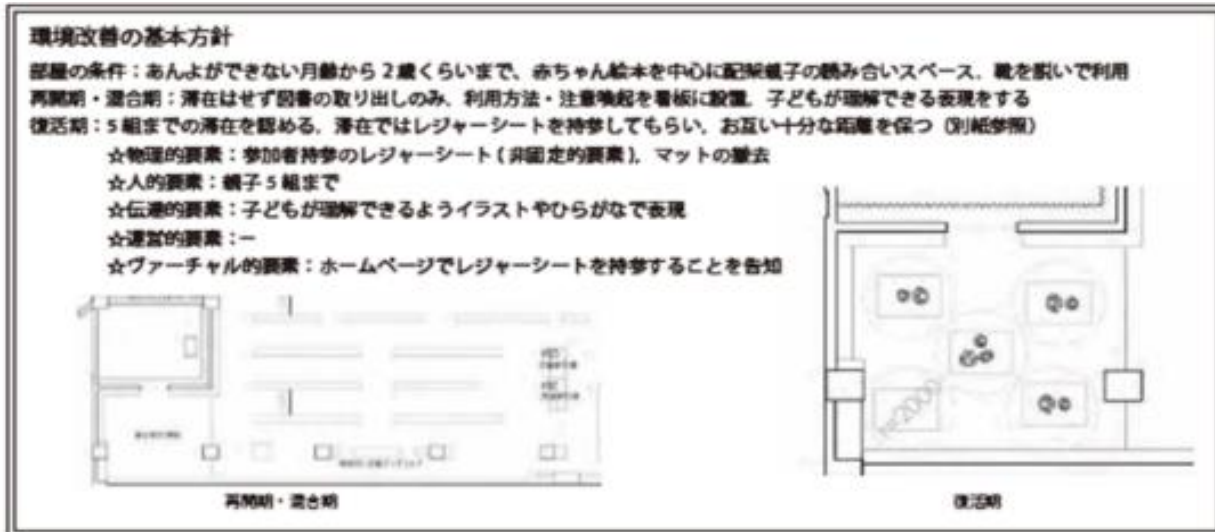


じゅうたんコーナーをマットで区切って密を避けて実施



椅子の配置を工夫し密を避けて実施

じゅうたんコーナーの使用について
キャプション評価による提案図



● オンラインツールによるキャプション評価の実施について

施設改修に対する市民意見聴取のイベントとして、誰もが快適に過ごせる空間づくりに向け、若年性認知症のご本人やご家族、障害者や高齢者、子育て層の方など、市民参加での「キャプション評価」ワークショップを予定していましたが感染防止のため実施せず、感染対策の要素を盛り込んで、オンラインツールによるキャプション評価を行いました。（再掲）

この評価を参考に、利用動線が交差する狭い場所の書架移動、閲覧席の配置見直し、館内案内図による消毒液設置場所の提示など、館内環境改善を実施しました。

図書館協議会委員の意見

- 西区子育て・教育環境整備事業としての環境整備に期待しています。専門家・専門機関と連携した行事の開催について、今後も月毎にテーマを設定して発信し、開催が定着されることを期待します。
- 公立図書館として「区民の学びや活動を支える」という視点はとても大切なことだと思います。学びや活動の実態と今後のニーズなどをよく調査され、新たな施設としても充実されることを望みます。
- オンラインツールの活用は今後の拡充が期待されると思いますが、そうしたツールを使いこなせない、使おうとしない人との「差」をどう埋めていくのか、公立図書館でも課題になると思われます。
- コロナ流行下とはいえ、人口からみて貸出・予約点数などが低い。来年度の増改築による書庫増床、会議室やオープンスペースの活用、プレスクールゾーンなど新たな空間の創設が利用を広げることが期待される。
- 区民の学びや活動を支える資料や場の提供を充実をすることができるのは、今の場所を生かすことができる、という点で今後が楽しみ。教育環境整備事業の充実は、新しく増える施設で可能となったことは、うれしい。それが、図書館の利用に大いに役立ってほしい、とも思う。
- 専門機関、専門家との連携も、市民の身近な健康への情報が多くなることはいい。
- 聞きなれないが、だれでも快適に過ごせる空間づくりに役に立つ「キャプション評価」は、なかなか面白い試みで、これからも時々色んなところで試してみてもいいと思う。コロナでの影響の報告…子どもの本の利用の仕方…増える層と減ったところ等よくわかった。
- 看護師、保健師のおはなしだったら、聴きたいという人が多いと思います。「まちの保健室」いいと思います。
- 書庫増床、多目的会議室が活用できるようになったことは良かった。どんどん活用してほしい。目標2の専門機関と連携した、相談事業や、区民の身近な場での情報提供はドンドン進めてほしい。キャプション評価の試みは興味深い。
- 館内での感染症対策を明示している点がわかりやすい。またコミュニケーションボードによる案内などの工夫がよい。
- 西図書館の書庫増設、ラーニングスペースや講演会等各種事業も実施できる図書館専用の会議室等も設けることができ良かった。これらの施設を使っての新たな図書館サービスの発展を期待したい。
- それぞれの地域性もあるためと思われるが、人口に比して貸出点数や来館者数が少ないと感じる。書庫増築、多目的会議室などの新設が、新たな魅力ある空間を創出し、人々の関心を高めることが期待される。



令和2年度 各図書館の取組み状況 (南区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	828,850	746,717	621,280 点	83%	88%
区民千人当たり	5,887	5,368	4,517 点	84%	90%
予約点数	69,885	62,923	49,943 点	83%	84%
区民千人当たり	496	452	363 点	80%	86%
レファレンス受付件数	15,376	21,797	13,609 件	62%	104%
区民千人当たり	109	157	99 件	63%	107%
協力貸出点数(借受)	1,787	1,389	1,575 点	113%	104%
区民千人当たり	13	10	11 点	110%	102%
来館者数	532,860	471,830	335,821 人	71%	74%
区民千人当たり	3,784	3,377	2,442 人	72%	76%

※人口 137,533 人(令和3年4月1日時点)

※梅分館、美木多分館を含む

今年度の目標
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、「新しい生活様式」を踏まえた図書館サービスに取り組みます。あわせて策定予定の「中央図書館基本指針」に基づき、区民視点に立ったサービス向上に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本図書館協会の感染拡大予防ガイドラインに基づき、区の図書館に求められる役割をスピード感をもって果たします。 2. 区のIT化を推進する「スマート区役所」の取組みと連携しながら、市の施設予約システムに図書館ホール・集会室の受付を搭載するなどの、非来館型サービスの取組みをすすめます。 3. 特色ある資料では、利用対象を明確化し、外国人市民が日常生活ですぐに役立つ資料を収集します。

取組み結果
<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア団体と調整及び意向を確認し、9月5日より検温、換気、時間短縮など市のイベント開催方針に従ったおはなし会を試行のうえ、再開しました。11月15日にはおたのしみフェアとして本市在住の画家・絵本作家 H@L さんの原画展・ワークショップ、堺歴史文化市民講座(作家・山本巧次さん講演)を実施しました。南図書館ホール・集会室は、ガイドラインに従って、早期開室を行いました。(集会室 5月26日、図書館ホール 6月2日)
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ワークショップ「しりとり絵本をつくってあそぼう」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「山本巧次さん講演会 阪堺電車 177 号の追憶」</p> </div> </div>

2. システム ICT 化に向け、庁内関係課と協議を続けてきました。課題を整理しながら、非来館型の市民サービス拡充に向けて市民の利便性向上に役立つ仕組みを、様々な視点から、引き続き研究していきます。
3. 市の施策である多文化共生に資する取組みを強化するため、多文化資料情報コーナーに配架する日本語学習に役立つ資料(『にほんご多読ボックス』など)を約 290 点収集しました。今後 HP や SNS での PR、国際交流プラザ等への情報提供を予定しています。



←収集した資料の一部

新型コロナウイルス感染症の影響

〔利用状況〕

臨時休館の影響もあり、貸出については前年度比 83%、来館者については 71%と他館と同様に減少しています。予約については 83%に減少していますが、協力貸出は 113%と増加しています。令和元年度に減少していた桐・美木多分館が増加に転じ、また府外からの借受については年々増加の傾向にあります。

〔予約資料の貸出〕

5/17～24 の予約資料貸出について、市民センター1階入り口に臨時窓口、駐車場にドライブスルー方式の窓口を設けて対応しました。事前に貸出手続きをした資料を梱包しておき、カードの照合と受け渡しのみ行うことで、短時間で対応できるようにし、感染リスクの低減を図りました。ドライブスルー方式の窓口では利用者が乗車したままで他の利用者と接触することなく図書の受け渡しを行えるため、利便性向上と感染リスク低減の効果があったと考えます。

〔館内 OPAC〕

感染リスク低減のため使用できる OPAC を半減して運用していましたが、窓口に予約を依頼したいという利用者が一定数おられ、OPAC 間に飛沫感染防止板を設置することで全台使用可能としました。



〔学習席・読書席〕

席数を減らし、サーキュレーターで換気を行うなど感染拡大防止対策を講じた上で、7月10日から試行再開しました。

〔集会室の利用〕

臨時休館中の対応として、電話での仮受付を実施しました。

緊急事態宣言終了後は定員を減らし、使用団体に市のイベント開催時と同じ感染予防策をとるよう利用条件を示し、再開してます。また、感染予防にかかる換気の実施や昨今の気象状況の変化に対応し、ホールの冷暖房について期間外使用(有償)を可能とするなどの対応を行いました。



〔対面朗読室の利用〕

対面朗読室を使用せず、集会室において感染防止対策を講じて実施しています。なお、別部屋で対面せずに朗読サービスが提供できるように対面朗読用のパソコンを設置し、当サービスを継続してきます。

形式を変更して実施した行事・イベントなど

紙上おはなし会として、ボランティア2団体がそれぞれ作成した絵本などの紹介リストを配布及び掲示し、図書館ホームページやTwitterで公開しました(7月、9月、12月に「紙上ぴよぴよおはなしかい」「紙上おはなし会」として実施)。

おはなし会等についてはボランティアと調整し、時間の短縮、換気、定員の削減、連絡先の把握など、市のイベント開催方針に従って、9月5日より再開しています。

令和3年度に向けてのボランティアとの打ち合わせについて、Web会議システムを使用し、リモート形式で実施。分館との会議についてもチャットシステムを使用してリモート形式で実施しています。



間隔をあけて座ってもらうため、おはなし室にマーカーとなるイラストを設置

図書館協議会委員の意見

- 5/17~24の期間の予約資料貸出について、臨時窓口の他に駐車場にドライブスルー方式の窓口を設けられたことは画期的だと思います。
- ドライブスルーは他にない試みで、将来の図書館を考えていくうえで参考になるものと思います。
- 感染拡大予防のガイドラインに沿ってさまざまな取り組みを早期に再開されたことを評価します。
- 多文化情報コーナーの充実を評価する一方で、それを利用している人はどの程度いるのか、また、そのコーナーを必要としている人に周知されているのかが気になります。区役所や市役所のそうした担当部局にある「資料コーナー」との差別化をはかり、図書館としての特色をもっと打ち出されてもいいように思えます。




- 今年度の目標では、「3.外国人市民が日常生活の中ですぐに役立つ資料を収集」とあるが、コロナ禍において外国人市民が母国語の情報を受け取る機会が難しいと感じる。図書館では外国人市民と情報を結びつける役割を担っていただきたい。
- 感染症流行下で対策を講じたうえで、お話し会や展示・講演会など積極的に現場経験を作ろうとされているように見えます。
- 集会室、学習・読書席、対面朗読室、お話し会の場など換気の問題で縮小を余儀なくされている点、他館と共通した問題があります。
- 取組み結果の２ これからのあり方だが、横文字が多くてわかりにくい、いい提案なら考えていっただらいいと思う。ただ、ICT にすべての人がのることができない、ということも念頭に入れておいてほしい。コロナの時期(だったからこそ)図書館施設を色々な工夫で、いかに利用者が安心して使えるか、工夫が色々とわかった。
- これから益々在住外国人が増えるであろうと思われるので、多文化資料情報コーナーの充実に励んでほしい。コロナが落ち着いたら在住外国人とコラボしたイベントの実施等も検討してほしい。
- 南図書館ホールは、コロナ禍による電話での仮受付、中止となったホール利用料の返金などの対応をしたとあったが、周知は不徹底で、コロナに寄らずとも、電話での仮受付、中止の場合の返金等、普段でも柔軟に対応すべきだと思う。
- 多文化共生の取組みを強化している点が非常にわかりやすかったです。
- 多文化情報資料コーナーについて生活情報も含めた更なる資料の充実を期待するとともに、コーナーの存在を、在住外国人に PR することに、もっと力を入れてほしい。
- 「多文化共生」の取組、コーナーの設置等、興味深い。地域の問題としての情報提供等、いいことだと思う。

令和2年度 各図書館の取組み状況 (北区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	586,044	532,804	450,819 点	85%	91%
区民千人当たり	3,678	3,336	2,827 点	85%	90%
予約点数	44,229	37,819	24,722 点	65%	66%
区民千人当たり	278	237	155 点	65%	66%
レファレンス受付件数	4,365	8,996	5,143 件	57%	139%
区民千人当たり	27	56	32 件	57%	137%
協力貸出点数(借受)	1,029	557	459 点	82%	56%
区民千人当たり	6	3	3 点	100%	58%
来館者数	279,025	255,537	180,268 人	71%	76%
区民千人当たり	1,751	1,600	1,130 人	71%	76%

※人口 159,471 人(令和3年4月1日時点)

今年度の目標
<p>新しい生活様式に対応した図書館サービスを展開し、子どもたちの読書習慣の向上に重点的に取り組めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動推進のため、ステップアップ講座を開催します。参加目標人数は50人。 2. 定例のブックフェアだけでなく、ミニブックフェアを随時開催します。目標30回。

取組み結果
<p>1. 堺市立図書館として、初めてリモート形式によるボランティアステップアップ講座を実施し、48人が受講しました。新型コロナウイルス感染症の影響で外出をためらう人が多いなか、ICTを活用した新たな取り組みとなりました。講座の申し込みと受講後アンケートも、初めて電子申請システムで実施しました。アンケートは48人中27人の回答(回収率56.3%)があり、講座の開催方法についての質問には、20人が何度でも繰り返し受講できるリモート形式の講座に「よかった」と回答しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ボランティアステップアップ講座 絵本の“絵”をよむ ～絵とことばから考える絵本～</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ミニブックフェア</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図書館からの挑戦状 「きみは、おもしろい本を借りることができるのか」</p> </div> </div> <p>2. ブックフェアを24回、ミニブックフェアを26回、計50回実施し、目標の30回を大きく上回りました。 北保健センターと連携し、9月に「生活習慣病を知って予防しよう」のミニブックフェア、11月に「考えよう、食べること(食育・歯)」、2月に「子どもも一緒に見直そう!生活リズム」のブックフェアを実施し、本の</p>

展示だけでなくチラシやブックリストで啓発しました。また包括支援センターとの連携では、8月に「認知症について知ろう」、10月に「認知症について」のミニブックフェアを実施しました。

また、北図書館からの挑戦状「きみは、おもしろい本を借りることができるのか」を開催し、約100冊貸出しました。これは、英字新聞に包んだ本を展示して、ひとこと紹介文をヒントに借りてもらうというものです。児童の利用を想定したイベントでしたが、様々な年代の方に借りられ、好評でした。

3. 学校園へ8,034冊の団体貸出を行い、子どもたちの読書習慣の向上に努めました。そのうち読書用のセット本貸出は34セット(1,360冊)で、長期間、学校内で子どもたちに利用してもらえました。

新型コロナウイルス感染症の影響

〔予約資料の貸出〕

臨時休館中、通常の3倍量分の予約取置資料があり、置き場が不足したため、長机やブックトラックを使用しました。それでも置ききれない分は、コンテナボックスを組み合わせて仮置きしました。

5/17～24の期間、感染対策を施したうえで、会議室にて予約資料の受け渡しを行いました。電話で来館日時を申し込んだ利用者1,278人に対し、7日間で貸出処理を済ませた予約資料6,006点を渡しました。



予約取置資料の仮置きの様子

館名	貸出点数
中央	4,067
中	2,228
東	2,966
西	2,393
南	2,704
北	6,006
美原	1,723



予約資料の受け渡し会場

〔返却資料の別置〕

当日に返却された資料は、返却処理をした後ブックトラックで仮置きし、翌日に配架しています。

北図書館は返却処理をする冊数も多く、ブックトラックだけでは置ききれないため、コンテナボックスを使用して仮置きしています。

	返却冊数	1日あたり
5月	4,836	806
6月	27,645	1,106
7月	43,504	1,611
8月	43,256	1,602
9月	41,359	1,591
10月	43,187	1,600
11月	40,034	1,540
12月	36,467	1,586
1月	46,623	1,865
2月	44,853	1,950
3月	48,944	1,958



[利用状況]

新型コロナウイルス感染症の影響で、貸出冊数は前年度の85%(450,819点)、来館者は前年度の71%(180,268人)、貸出者数は前年度の82%(105,295人)でした。子育て世代が多いため、1人で来館した利用者が家族分まで借りていくケースが多く、特に児童書の予約本も冊数的に多く見受けられました。じゅうたんコーナーは、密を避けるためにコーンを設置した結果、1時間以内の滞在が浸透しました。

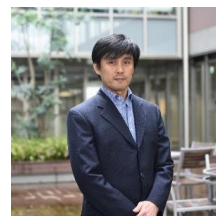
[対面朗読]

対面朗読室を使用せず、研修室において感染防止対策を講じて実施しています。点字図書館と連携し、ボランティアとリスナーとの連絡調整したうえ、研修室にて対面朗読を5回実施しました。またリモートでのサービスを展開するためWi-Fi環境を整備しました。なお、別部屋で対面せずに朗読サービスが提供できるように対面朗読用のパソコンを設置し、当サービスを継続してきます。

形式を変更して実施した行事・イベントなど

1. ボランティアステップアップ講座をリモート形式で開催

- 「絵本の“絵”をよむ～絵とことばから考える絵本～」(講師:遠藤純氏)
- 堺市立図書館動画チャンネルで12月2日～12月25日公開
- 動画本数3本。48人受講。(再生回数:295回)
- 受講者にのみYouTube動画URLを通知
- 堺市電子申請システムによる申込受付・受講後アンケート



武蔵川女子大学教育学部准教授。日本児童文学学会理事。専門領域は日本の児童文学・児童文化史。宮沢賢治研究。

2. 紙上おはなし会として、絵本等の紹介リストを3回発行
「このほんみてみて」(たんぼぼ絵本の会作成)
図書館ホームページで公開



3. 「おはなし会」の開催

- 10月、11月、12月、3月に実施し、計21人が参加
- 定員7組(多数の場合は抽選)
- 開始前に、検温と消毒を行い、大阪コロナ追跡システムの登録
- マスク着用で連絡先がわかるもの(図書館の貸出カードなど)を持参
- 実演者はマスクを着用し、ピンマイクを使用
- 会場は仕切りを解除、おはなしのへや・研修室の両方を使用
- 窓を開け、換気のためカーテンを閉めない



図書館協議会委員の意見

- リモート形式により、ボランティアステップアップ講座を実施されたことは、新たな取組みとしてこれからの時代にとっても有効だと思います。浸透していくよう定期的に開催すればいいと思います。
- 子育て世代が多い、親子での来館が多い一方で、成人の利用者も多く、いろんな世代のニーズに工夫して対応されていることを評価します。
- 「ミニブックフェア」も随時開催することで、多くのジャンルの本を引き続き幅広い層に紹介していただくことを望みます。
- リモート形式によるボランティアステップアップ講座の実施。新たな取組みを評価。
- 他館と同様に、対面読書室の不利用、予約資料の置き場や返却資料の置き場に苦労していて図書館構造上の問題が絡んでいるようです。
- ステップアップ講座をリモート形式でするのは、これからのやり方としてよかったと思う。
- コロナで閉館の時期の予約本の山…、また、終わってからも1日取り置いておくというのは、貸出数の多い北図書館では、さぞ大変(他館でも)だったと思う。そういった時でも、これからは貸出だけでもできるようにしてくれたらいいと思う。
- ICT活用は結構ですが、図書館にリアルに足を運んでもらうことも大事だ。特に子どもにとってはリアルな体験は大事。コロナ後も見据えて、子育て世代に支持される図書館サービスを追求してほしい。
- 今年度の目標に数値を掲げている点はよい。子どもたちの読書週間の向上に重点的に取り組むのであれば、「1」や「2」の項目も子どもたちに関連することを具体的に記述すれば、わかりやすいと思います。
- 予約資料の貸出点数が多く、コロナ禍でとても大変だったと思います。有難うございます。
- ミニブックフェアの開催は大いに進めてほしい。
- 地域包括センターと連携しての高齢者サービスは今後期待されるサービスと思う。

IV 令和2年度 各図書館の取組み状況

令和2年度 各図書館の取組み状況 (美原区)

定量的指標	H30	R1	R2	前年度比	(参考)開館日数 換算対30年度比
貸出点数	338,148	293,094	242,959 点	83%	85%
区民千人当たり	8,854	7,730	6,468 点	84%	86%
予約点数	17,061	15,328	11,305 点	74%	78%
区民千人当たり	447	404	301 点	75%	79%
レファレンス受付件数	8,924	9,203	5,068 件	55%	67%
区民千人当たり	234	243	135 件	56%	68%
協力貸出点数(借受)	352	177	176 点	99%	61%
区民千人当たり	9	4	5 点	125%	66%
来館者数	153,672	133,599	88,094 人	66%	67%
区民千人当たり	4,024	3,524	2,345 人	67%	69%

※人口 37,565 人(令和3年4月1日時点)

今年度の目標
<p>本館利用者のうち、コア的な存在である中高年層の利用者数減少に歯止めをかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中高年層利用者を意識した蔵書構成・配架を心掛ける。 2. ミニブックフェアの開催等にあたり書庫本の活用を図る。 <p>新型コロナウイルス感染症リスク低減させるための各種図書館サービスの実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 来館者に安全と安心感を与えるための館内施設の消毒等の実施 2. 非来館型サービスの拡充

取組み結果																									
<p>美原図書館の利用者は中高年の利用者の比率が高く、区在住者の高齢化も進んでいます。このため、今年度はコア的な利用者である中高年層の利用者の減少防止目標を定め、諸策を講じました。結果として中高年層の利用減は全市に比べやや抑えられましたが、特に子どもの利用が減少しました。</p> <p style="text-align: center;">貸出者数・人口前年度比較(%)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>R2/R1 (才)</th> <th>0-14</th> <th>15-64</th> <th>65-</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出者数(美原)</td> <td>68.4</td> <td>81.3</td> <td>86.6</td> <td>81.1</td> </tr> <tr> <td>貸出者数(12館)</td> <td>75.8</td> <td>82.7</td> <td>83.8</td> <td>82.1</td> </tr> <tr> <td>人口(美原区)</td> <td>97.7</td> <td>99.6</td> <td>100.6</td> <td>99.6</td> </tr> <tr> <td>人口(堺市)</td> <td>98.2</td> <td>99.6</td> <td>100.2</td> <td>99.6</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(人口統計は住民基本台帳による)</p>	R2/R1 (才)	0-14	15-64	65-	全体	貸出者数(美原)	68.4	81.3	86.6	81.1	貸出者数(12館)	75.8	82.7	83.8	82.1	人口(美原区)	97.7	99.6	100.6	99.6	人口(堺市)	98.2	99.6	100.2	99.6
R2/R1 (才)	0-14	15-64	65-	全体																					
貸出者数(美原)	68.4	81.3	86.6	81.1																					
貸出者数(12館)	75.8	82.7	83.8	82.1																					
人口(美原区)	97.7	99.6	100.6	99.6																					
人口(堺市)	98.2	99.6	100.2	99.6																					

1. 中高年層利用者を意識した蔵書構成・配架

- 3月に市内楽器店から譲渡された楽譜棚を活用し、大活字本、個人全集本などを収容し、空いたスペースに時代小説の文庫本を配架。配架スペースに余裕ができ、高齢者にも取りやすくなり好評です。
- 中高年に人気のある有吉佐和子の著作などの更新に心掛けました。(146冊)



譲渡された元楽譜棚を活用→

1. 書庫本の活用

美原図書館の書庫所蔵本は比較的コンディションが良好なものも多く、また、出版年の古い本は中高年層に一定の需要があります。しかしながら、利用者が書庫に立ち入り、自由に本を選べず、また端末検索操作が苦手な方も多いため、当館で企画するブックフェアの際は、目標として展示総点数のうち書庫本 20%以上を掲げました。その結果、書庫本の平均展示率は、30.03%でした。また、外山滋比古、半藤一利、安野光雅の追悼フェアなどのミニブックフェアにおいては、いずれも開催期間が短い中でも、展示した書庫本が多く貸出されました。

感染症リスク低減のための各種図書館サービスの実施

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、臨時休館が終了し再開後の5月下旬以降、館内での感染を防止するため、様々な感染症予防策を講じました。

1. 安全と安心感を与えるための館内施設の消毒などの実施

◎日々の取組み…… 後述『日々の感染症への取組み』参照

◎コロナ禍での創立20周年記念事業

旧美原町立図書館が開館し、今年は創立20年に当たります。例年11月に開催していた区民まつり、図書館まつりが中止となる中、感染症対策を徹底し、創立20周年記念事業として本のリサイクルフェアなどのイベントを開催しました。



感染症対策を徹底して実施の本のリサイクルフェア



ボランティアグループの活動をパネルで展示

2. 非来館型サービスの拡充

美原図書館にて毎年実施の『美原図書館ティーンズ POP ふえすていばる』の作品応募、優秀作品の投票において、今年度は従前の来館による作品応募、優秀作品の投票に加え、あらたに Web 上での作品募集、投票を始めました。農芸高校の生徒の皆さんから多数の応募をいただき、大変盛り上がりました。



POP ふえすていばる作品展示

令和2年度の応募・投票状況

	応募作品数	投票数
総 数	252	72
うち Web 経由	3	14

児童サービスにおいて、『美原をしらべよう』シリーズとして12月に『黒姫山古墳のひみつ』を、また2月には『河内鑄物師のひみつ』を作成し、館内にリーフレットを配架しました。

また、図書館ホームページにも掲載予定です。



リーフレットと同一内容を
図書館ホームページにも掲載予定

新型コロナウイルス感染症の影響

● 利用者への影響

令和2年度の貸出者数、貸出点数とも前年の8割程度でした。臨時休館中の4月は皆減、5月は3割、6月は6割、7月以降は8~9割程度まで回復しました。美原図書館は当初全市平均より3%ほど低かったのですが、後期以降はほぼ全市平均と同率となりました。

貸出者数・貸出点数の前年比

R2/R1	美原図書館	12館合計
貸出者数	81.1%	82.1%
貸出点数	82.9%	83.9%

● 日々の感染症対策への取組み

館内入口などに、マスク着用、1時間程度の館内での滞在時間を依頼するポスターの掲示、ソファ、閲覧席などは3密防止の観点から、平常時のおおよそ半数の使用に制限しました。

また、利用者に安心し、安全に図書館を利用して頂くため、日に3回(会館前、午後2回)、施設消毒、館内放送を実施しました。これら作業には、図書館職員が交代で従事し、確実な実施のため、予定表として使用しているホワイトボードに当番を示すマークを張り付けました。



当日の当番を示すマークを
ホワイトボードに貼り付けた

形式等を変更して実施した行事・イベント等

おはなし会等の図書館イベント

市の方針に基づき、予定していた図書館内でのイベントは中止または延期としました。

実施したイベントについては、会場の変更、開催時間の短縮、参加者数の制限、会場入室時の受付と受付時の体温測定などの感染症対策を講じ実施しました。



会場を変えたおはなし会と受付の様子



図書館協議会委員の意見

- 中高年層の利用者の割合が高いという観点でいうと、館内施設の消毒等の実施も大事ですが、非来館型サービスの拡充に重点を置く方が、相対的に利用者の数が増加すると思います。
- 中高年利用者の取り込みに向けて対策を立てておられることを評価します。端末を検索するのではなく、書庫本の活用をして実際に手にしてみることができる機会を増やすといった配慮もよいと思います。
- 一般的に、子ども向けのもの → それに同行する親や祖父母の取り込みといったパターンが多い中、直接中高年にはたらきかける点で今後の変化を期待します。
- 高校生へのはたらきかけを以前からされていますが、「非来館型」で高校生の図書館利用を増やせないかの検討もお願いしたいところです。
- 「取組み結果」の「貸出者数・貸出点数の比較」や「新型コロナウイルス影響の各館の状況」では、「貸出者数・貸出点数の前年比較」で具体的な数値が示されており、数値的にどのような影響があったのかを把握するのにわかりやすかった。
- 感染症影響下で利用者の減少がみられるが、それでも人口に比べ図書館利用度が最も高い地域である。中心利用者である中高年層を意識した蔵書や配架を試み、書庫内図書や端末検索できない人のためのブックフェアは親切な心配りが感じられる。
- 減少した中高年層の利用者に向けての蔵書構成と配架の工夫はいいと思う。見やすい棚もいいですね。
- ブックフェアに書庫の本を利用するのは、日ごろ目に触れていない本との出会いがあって、いいと思う。追悼フェアも最近目にするのが少なくなって、そういうときこそタイムリーで、書庫の本を紹介することもできていいと思う。
- 非来館型サービスで、ティーンズ POP フェスティバルも盛況で、若い人はWEB上でも(かえっていいのか…)多数の参加があり、そういった試みは今回のこの機会できてよかった。
- 中高年層の利用の落ち込みは全国的な傾向の前触れの表れ現象かもしれない。現状把握、利用分析、利用者ニーズの把握、経過観察等、利用者の声をしっかり聞いて対策を講じ、結果を分析をしつつ試行錯誤しながら、発信を続けてほしい。
- 中高年の利用減対策は、今後とも継続して蔵書構成・配架等の工夫を模索し、結果分析・経過観察を続けていってほしい。

V 令和2年度の総評

- 新型コロナウイルス感染症の影響の中、YouTube 配信、メール申込み、無料公衆無線 LAN サービス、講座の動画の配信、電子書籍の貸出者数が大きく増加等、健闘しました。
- 令和 2 年度は、1 年を通してコロナに振り回されたことと思います。しかし、そんな状況下で、新たなサービス方針である「市民の生きる力を育み、豊かな学びをひろげ、未来を創り出していくこと」この 3 つの基本方針と 9 つの具体的方向性を基軸に、色んな試みを実践されてきたことを評価します。
- 新型ウイルス流行下においても、図書館利用度の一定の高さが維持され、それに対応した図書館職員の多様な努力がみられる。なかでも電子書籍、動画配信等、ICT を活用した図書館利用の増加がみられ、一般において ICT が浸透してきていることを示すとともに、それに対応した図書館側の配信力の向上とデジタル資料の増加がみられる。これは今後の図書館利用の一つの方向が、ウイルス流行下の中で、かえって強められたという結果を示していると思われる。ただし、この非来館型サービスの拡大は来館者の減少につながらないかが懸念されるとともに、ICT 利用困難者がサービスから取り残されていくのではないかという危惧もある。
- 新型コロナによる緊急事態宣言などの影響で、来館者や貸出冊数が減少したのはやむを得ない。その代わりに電子書籍の利用が伸びたり、図書郵送サービスをスタートさせることができたことは、非来館型サービス向上への良いステップになったと思う。
- 新型コロナ感染状況の中で、例年通りのサービスができなかったのは残念だった。こうした災害下の中で、いかにして市民に情報や資料提供ができるか、普段から考えておくことが必要だと思う。リモートによるサービス提供は災害時でなくても、日常的に考えた方がよい。
- 新型コロナ禍の中で、大きく利用を減少させなかったことは全体的に評価できる。
- 新型コロナウイルスによる臨時休館は、利用者にとっては、とても不便で、開館が待ち遠しい思いでした。図書館の方でも、予約の本の山でスペースをかなり取られ、その本の貸出等を考えるとかえって大変なことだったと思います。ただ、そういったことが、電子書籍の利用の増加、期間限定の電子図書館用臨時 ID の発行、図書郵送サービスにもつながり(無料か、できる限り安価になればいいですが)、また、非来館型サービスの拡充として講演会や講座等の動画配信ができるようになったことは、これからの図書館サービスにつながり、プラスになったと思いました。第 5 波による緊急事態宣言の時は、感染予防対策を取りつつ、図書館を開館させたことには感謝したいです。これからこのような事態になったときのことを予想して、指標をつくる等の対策を取ってほしいと思います。
- 感染症流行下、行政判断によって図書館も他の密集場所と同一視され休館措置が取られているが、図書館は他の密集と異質であり、話し合うわけでも人込みになるわけでもない。一定の防止対策を行えば、開館可能なのではないかとと思われる。
- デジタル資料の利便性は非常に高いが、それは本や資料というモノとの出会いを意味しない。どんなデジタル資料であっても、その原資料、原書籍が確かめられることによってその内容は保証されている。デジタル資料はテキストであって本ではない。本はすべて個性的なもので、装丁、手触り、字体、重量感、紙質などが総合されて 1 冊の本としての姿かたちを持つ。読書経験はそういう本の姿かたちとともにある。いつ、何を讀んだかという記憶は本の姿かたちとともに刻み込まれている。図書館はそういう本との出会いの場であることを将来にわたって大切にしていきたい。これはデジタル化抑制ということではなく、それを促進しながら、その土台としての本そのものを充実してほしいということです。
- 歴史文化資料のマイクロ・デジタル化予算が予算的に厳しいことは大変残念。現在のデジタル資料も写真や絵図を中心とした面白いものですが、堺市史史料稿本などよく利用される貴重史料があります。こういう史料群のデータベース化を進めることは堺市民へはもとより、全国へ向けて堺市図書館を発信する最も有力な方法です。それと合わせて、そういう原資料を市民自身が活用していくためのリテラシー育成の場を設けられては如何でしょうか。古典籍や古文書を自分の力で読解し、堺の歴史文化を発見する経験をしてもらえるはず。こういうことは大坂府・市はじめ多くの自治体図書館ですで行われていることです。

- 電子図書はもっとコンテンツを増やすべき。
- 堺市と大阪狭山市の2市間において相互利用を開始したことにより、相互貸出点数が増加したこと、堺東駅前のサテライト図書サービスコーナーが開所され、利用者が多いことを受け、今後範囲が広がることを期待します。終息が見えないコロナ禍で、試行錯誤しながら実施された講演会や展示会等のYouTube配信や、電子IDを発行し電子書籍を利用できるサービスによって利用者が増加していることは大きく評価できます。
- 堺東駅前サテライトは大変利便性が高い。ただし奥まったところに位置し、図書館施設としての雰囲気になじく事務所という趣が強くやや殺風景。もうすこし目を引く導線の工夫と一定の書架があった方がよい。
- 堺東駅前サテライトサービスの取組みも、平日の利用が難しい現役世代の利便性向上につながる取組みとして評価できる。本市は面積が広く、区に1つの図書館では利用しにくい人も多いと思われる。ぜひ他の主要駅前への設置へと拡充してほしい。
- 堺市の図書館の最大の課題は、施設の老朽化、陳腐化である。特に中央図書館は、施設の老朽化のみならず、建設思想が旧来のものであることから利用者交流空間などあらたに必要な機能が備わっていない。図書館の魅力として質的に高い空間の必要性が指摘されている現在、建替えは喫緊の課題である。
- 図書館施設とスペースの問題性。施設の問題はどこで評価されるのかがはっきりしない項目設定になっている。これは今のところ基本方針2の④「安心して楽しく利用できる環境を整備します」という中で扱うべきかと思われる。
 - ・中央図書館の老朽化と建替えの必要性は言い続けられるべきこと。
 - ・感染症防止対策下での施設上の問題。多くの館で子ども読書室、対面読書室等が換気や密集の問題で使用できずに別室対応がなされ、また閲覧席の減少や自習室の閉鎖がみられ、さらに休館中の予約貸出業務における仮置きと返却本の消毒場所のスペース確保などにどの館もかなりの苦勞をされている。これらが臨時の一時的措置にとどまるならともかく、今後繰り返し起こる可能性がある。そのさい、このまま一時的対応でしのでいくのか？それとも恒常的に対応していくため何らかの施設改善計画を企図されるべきではないのかと思われる。これは利用者サービスにおける大きな問題と思われる。
- II 新たなサービス方針での基本方針(2)【学ぶ力】の⑤の「学校と連携して学びを支援します。」は、とても心強いサービスです。これからもさらに学校図書館との連携よろしくお願いします。
- ⑥の「青少年、高齢者、障害者、外国人など、いつでも・だれでも・どこからでも学べる環境を充実します。」はとても心強い提案ですが、本の資料や充実された環境をそのような人たちにどうやって結び付けていくのか。このようなサービスの展開は、すべての人に等しくされているのか、たとえば、インターネットが使えないような人は、学べる環境の充実とつながることができるのか、そういったサービスに預かることができるには、どうしたらいいのか、今後ますます高齢化社会となっていくのを見据えて考えてほしいです。
- コロナ禍の影響もあってのことと思われるが、PDCAサイクルの実施については、必ずしも円滑に行われていない。目標の立て方が抽象的であったり、目標達成の自己評価があいまいである。すでに飽和的水準にあると思われる分野では、「維持すべき数値」を設定すべきである。またそのような分野でも今期の美原図書館の高齢者利用減少対策のように取組み結果を数値によって検証可能な手法は必ず存在するものである。
- 評価の内容が年々充実しており、図書館職員の意識が高いと感じる。しかしながら、昨年の意見や課題点が今年度どうなったのかがわかりにくい。具体的方向性などの項目や基本方針を更新させるよりも、評価に対してどのように実践・実行したのかがわかるような工夫が欲しい。今年度であれば、委員会の意見を踏まえて、図書館としての課題の認識を共有し、次年度にどのように活かしていくのかが重要ではないか。また、地域館については取組状況が全体的にわかりやすくなってきた。各館がどのようなサービスに力を入れているのかが明らかになって良い。これについても昨年の課題点を今年度はどのように改善していくのか、その内容が欲しい。

V 令和2年度の総評

- 各区の取組みも、それぞれの地域性を生かしていることがよくわかった。老若男女あらゆる世代の人が利用しやすい図書館をめざしていることも理解できます。「キャプション評価」「まちの保健室」「多文化資料情報コーナー」「ボランティアステップアップ講座」等、リモート形式での開催を視野に入れ、今後の発展を期待しています。非来館者が増加してしまうのではないかと不安材料もありますが、これからの時代「コロナ」という負の要素を逆手にとり、あらゆる角度から利用しやすい「図書館」であってほしいと思います。
- 各館それぞれの地域の特色を生かした取組みは、これらの資料を見せていただくまで、図書館をよく利用している私でしたが、あまり知りませんでした。もっと、市民に対して「図書館はこういったことをしています。」などといかに知ってもらうか、目に見える形でアピールすることは、とても大事なことだと思います。
- 各地域館がそれぞれ様々な取組みをしているのは良いが、総体的に発信が弱い。各館の取組みについて、もっと市民に知ってもらう努力をするべきではないか。
- 同じ本を何冊も購入するのに問題があるのかもしれないが、新刊書や話題の本の予約待ちが多過ぎて残念に思うことがある。なんとか工夫していただければと考える。

VI 基本的な図書館活動指標

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	(前年度比)
予算				
図書館費（円）	373,229,000	356,529,000	365,180,000	102.4%
資料費（円）	99,120,000	99,120,000	97,220,000	98.1%
図書購入費	86,400,000	86,400,000	84,500,000	97.8%
新聞・雑誌・追録等資料購入費	12,720,000	12,720,000	12,720,000	100.0%
オンラインデータベース使用料（円）	4,198,000	4,312,000	3,752,000	87.0%
資料収集				
蔵書数（点）	1,894,075	1,896,662	1,896,466	100.0%
受入点数（点）	55,338	55,768	49,946	89.6%
雑誌タイトル数（点）	1,315	1,314	1,295	98.6%
オンラインデータベースタイトル数	12	9	9	100.0%
利用サービス				
開館日数（中央図書館のみ・日）	308	285	261	91.6%
職員数（人）	125	158	163	103.2%
来館者数（施設利用者数・人）	2,223,697	2,001,220	1,382,757	69.1%
登録者数（人）	313,662	324,578	332,126	102.3%
個人（新規）	15,587	13,428	9,997	74.4%
うち大阪市相互利用	131	141	127	90.1%
うち泉北地域4市1町相互利用	232	219	174	79.5%
うち大阪狭山市相互利用 ^{※1}	—	—	269	—
団体（新規）	18	18	20	111.1%
貸出点数（点）	4,313,266	3,951,877	3,339,511	84.5%
個人貸出点数	4,240,402	3,886,601	3,299,102	84.9%
うち協力貸出点数（貸出＋借受）	14,645	12,823	12,256	95.6%
うち大阪市相互利用	17,652	12,783	14,748	115.4%
うち泉北地域4市1町相互利用	14,600	13,387	9,474	70.8%
うち大阪狭山市相互利用 ^{※1}	—	—	2,957	—
団体貸出点数	72,864	65,276	40,409	61.9%
予約件数（件）	1,108,130	1,070,527	1,001,721	93.6%
複写枚数（枚）	61,537	50,371	37,564	74.6%
オンラインDB利用件数（件）	32,424	49,379	19,329	39.1%
HPトップページアクセス数（件）	3,295,729	2,390,465	2,454,367	102.7%
蔵書検索回数（回）	3,013,824	3,230,823	3,580,763	110.8%
レファレンス受付件数（件）	76,278	90,051	61,394	68.2%
電子書籍閲覧回数（回）	21,972	28,368	75,587	266.5%
市民の声の受付件数（件）	32	62	40	64.5%
講師派遣人数（人）	30	23	25	108.7%
地域資料サービス				
地域資料蔵書数（点）	107,622	109,866	112,422	102.3%
地域資料レファレンス受付件数（件）	5,902	6,078	5,362	88.2%
デジタルアーカイブ点数（点）	1,037	1,172	1,377	117.5%
貴重資料の利用点数（点）	283	351	366	104.3%
行政資料受入点数（点）	845	154	24	15.6%

Ⅵ 基本的な図書館活動指標

	30年度	令和元年度	令和2年度	(前年度比)
児童サービス				
児童書蔵書数（点）	524,307	524,201	518,606	98.9%
児童書貸出点数（点）	1,713,823	1,565,896	1,284,220	82.0%
児童のみ登録者数（点）※2	33,327	31,829	29,241	91.9%
学校園への配送点数（点）	48,234	36,685	30,610	83.4%
図書館見学来校数（校）	77	76	2	2.6%
図書館見学参加人数（人）	6220	5831	49	0.8%
おはなし会・読み聞かせ会 実施回数（回）	646	591	77	13.0%
おはなし会・読み聞かせ会 参加人数（人）	11,527	8,737	593	6.8%
「子ども読書の日記念事業」等 学校訪問対象生徒・児童数（人）	1,274	3,652	1,314	36.0%
学校図書館訪問校数（校）※3	48	27	26	96.3%
講師派遣人数（児童書に関わる講座・ 人）	23	19	25	131.6%
「絵本から広がる家庭での親子ふれあい 事業」実施回数（回）	140	120	18	15.0%
高齢者・障害者サービス				
対面朗読室利用回数（回）※4	322	193	12	6.2%
大活字本蔵書冊数（点）	4,837	4,900	4,953	101.1%
一カ月貸出延利用者数（人）	7,309	6,271	5,787	92.3%
点字図書館への貸出冊数（点）	142	116	123	106.0%

※1 令和2年11月1日から大阪狭山市との相互利用を開始。

※2 14歳以下の登録者数。

※3 図書館独自で学校図書館へ訪問を行うほか、学校教育部が行う巡回訪問に同行し、現状や課題の把握に努めた。

※4 新型コロナウイルス感染症対策のため、会議室等を利用した回数も含める。